

第六十九回 帝國議會院 昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案委員會議錄(記)第二回

	高良 宗七君	岩瀬 亮君	會 議
	篠原 義政君	末次虎太郎君	昭和十一年五月十四日(木曜日)午前九時四十分開議
	笠井 重治君	池崎 忠孝君	
	川村保太郎君	藏原 敏捷君	出席委員左ノ如シ
	同日岡本實太郎君理事辭任ニ付其ノ補闕ト		委員長 金光 庸夫君
	シテ池田清秋君理事ニ當選セリ		理事駒井 重次君 理事矢野庄太郎君
	出席國務大臣左ノ如シ		理事木村 正義君 理事田尻 生五君
	大藏省主計局長 賀屋 興宣君	大藏省主稅局長 山田 龍雄君	森 兼道君 鈴木康太郎君
	大藏省理財局長 廣瀬 豊作君	大藏書記官 江口 順一君	内藤久一郎君 南雲 正朔君
	大藏書記官 木内 四郎君	大藏書記官 松隈 秀雄君	仲井間宗一君 中 亥歲男君
	諸ヲ求ムル件)	昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案(政府提出)	本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
	昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)	昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)	昭和十一年勅令第七號(災害善後ニ關スル件)(承
	出席政府委員左ノ如シ	昭和九年法律第七號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル一時賜金シテ交付スル公債發行ニ關スル件)(政府提出)	ル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)
	大藏參與官 丹下茂十郎君	大藏政務次官 中島彌團次君	對支文化事業特別會計法中改正法律案

(政府提出)

關稅定率法中改正法律案(政府提出)

大正十三年法律第二十四號中改正法律案

(贅澤品等ノ輸入税ニ關スル件)(政府提

出)

昭和七年法律第四號中改正法律案(輸入

稅ノ從量稅率ニ關スル件)(政府提出)

製鐵業獎勵法中改正法律案(政府提出)

○金光委員長 是ヨリ開會致シマス、岡本

君ガ理事ヲ辭任セラレマシタノデ、其補缺

選舉ヲ行ハネバナリマセヌガ、先例ニ依ッテ

委員長ヨリ指名致シマスコトニ御異議アリ

マセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○金光委員長 御異議ガナケレバ御指名申

上ダマス、池田清秋君ヲ指名致シマス——

付託ニナッテ居リマス諸案ヲ全部一括シテ

議題ニ供シマス、前會ニ續イテ國務大臣竝

ニ政府委員へ質疑ヲ願ヒマス——大藏大臣

御出席デゴザイマスカラ、矢野庄太郎君

○矢野委員 連日ノ質疑應答ニ依リマシテ

馬場新大藏大臣ガ抱カレテ居リマスル日本

經濟機構ニ對スル主義思想、又公債政策竝

ニ增稅計畫ニ付テハ大體其輪廓ガ明瞭ニ相

成ッタト存ジテ居リマス、是レ以上質問ヲ申  
上ダマシテモ、御答ヲ戴ク限界ニハ十分到

達シテ居ルヤウニ思ヒマスノデ、私ハ極メ  
テ簡單ニ事務的ノ極ク平凡ナコトヲ二三御  
同致シテ置キタイト存ジマス、ソレハ所謂  
低金利方策ニ關スル事柄デアリマスガ、其

第一點ハ先日新聞ノ記事ヲ見マスルト、是  
ハ直接大藏省ノ所管デハゴザイマセヌケレ  
ドモ、簡易保険積立金ノ運用ニ付テ、十一  
年度カラ四分八厘ノ金利ヲ四分五厘ニ切下  
ゲテ、自作農創設ニ充テルト云フコトガ  
載シテ居タノデアリマス、私ノ郷里四國邊リ  
デモ、地主ハ三分ニシカ廻ラナイト云フコ  
トヲ言シテ居リマスノデ、四分五厘デモ尙ホ  
自作農ノ金利負擔ハ非常ニ重イノデアリマ  
スルガ、此點ニ付テ大藏大臣ハ此四分五厘  
ヲ更ニ四分トカ、或ハ三分八厘トカ云フヤ  
ウニ金利ヲ下ゲルト云フ御考ヲ御持チニナッ  
テ居ラナイデセウカ如何デセウカ

○馬場國務大臣 只今ノハ簡易生命保險積  
立金ノ自作農創設ニ關スル金利ノ御話ト承  
知致シマスガ、御承知ノ如ク、簡易生命保  
險ノ資金ヲ自作農創設維持ニ出シマスル金  
利ハ從來四分八厘デアッタ、ソレヲ先般三厘  
利アリマスノデ、餘程安クナッテ居ルノデ  
アリマス、預金部デハ慥カ耕地整理組合ハ  
三分二厘デ、其間ノ仲介銀行ガ六厘乃至七

金ナンデアリマスルガ、サウ致シマスルト、  
自作農ハ四分五厘ニ本人ガ借リマシテモ、  
一分三厘ノ補給デアリマスカラ、結局自作  
農者トシテハ三分二厘ノ負擔ニナル計算ト  
思ツテ居リマス、是ハ實ハ農林省方面カラハ  
尙ホ一層此金利ノ低下ヲ遞信省ニ要望シテ  
居ルノデアリマス、然ルニ御承知ノ如ク簡  
易生命保險ノ積立資金ハ資金ノ運用委員會  
ト云フモノデ其金利其他ヲ決メルモノデア  
リマス、是ハ永年自作農創設維持ニ對シマ  
シテハ、運用委員會トシテ相當ニ此問題ニ  
付テ委員ノ間ニ議論ガアルノデアリマス、  
其爲ニ之ヲ俄ニ下ゲルト云フコトハ中々困  
難ノヤウデアリマス、併シ一分三厘ノ補給  
ガアリマスカラ、結局今回ハ自作農者トシ  
テハ三分二厘ノ負擔ナノデ、此程度ナレバ  
別ニ更ニ之ヲ下ゲル必要ハナカラウト運用  
委員會トシテ見テ居ルヤウデアリマス、今  
俄ニ下ゲルト云フコトハ、私自身トシテハ  
斷言致シ兼ネル次第デアリマス

○馬場國務大臣 勸業銀行ノ利息ノ問題デ  
アリマスガ、今御話ノコト、少シ利率ガ違ツ  
テ居ルカト私ハ考ヘテ居リマスガ、耕地整  
理組合ニ對シマスル金利ハ、大體耕地整理  
ニ出シマスル今ノ資金ハ預金部ノ低利資金  
デアリマスノデ、餘程安クナッテ居ルノデ  
アリマス、預金部デハ慥カ耕地整理組合ハ  
厘ノ利鞘デヤナイカト思ヒマス

ト、赤字公債ハ何ダカ賴リガナイヤウナ氣  
持ガスルノデアリマスガ、其赤字公債ノ金  
利スラ三分七厘強ニシカ廻ラナインノデア  
ル、耕地トカ、田畠、鹽田ハ沟ニ私ハ擔保  
トシテ確實ナモノデアルト考ヘルノデアリ  
マス、尤モ金ヲ貸付ケル場合ニ擔保價格ノ  
鑑定ヲスルコトハ、相當專門的ノ知識ガナ  
ケレバ出來ナイト思ヒマスケレドモ、其擔  
保價格ノ鑑定ニ於テ過チガナカツタナラバ、  
私ハ六分五厘、或ハ六分一厘ト云フノハ沟  
ニ好イ金利ダト思ヒマスガ、大臣ニ於カレ  
マシテハ、此金利ニ付テドウ云フ風ニ御考  
ニナリマスカ、是レ以上ハ下ゲラレナイト  
言ハレルノデアリマセウカ、ソレヲ伺ッテ  
置キタイト思ヒマス

○馬場國務大臣 勸業銀行ノ利息ノ問題デ  
アリマスガ、今御話ノコト、少シ利率ガ違ツ  
テ居ルカト私ハ考ヘテ居リマスガ、耕地整  
理組合ニ對シマスル金利ハ、大體耕地整理  
ニ出シマスル今ノ資金ハ預金部ノ低利資金  
デアリマスノデ、餘程安クナッテ居ルノデ  
アリマス、預金部デハ慥カ耕地整理組合ハ  
厘ノ利鞘デヤナイカト思ヒマス

○矢野委員 次ニ御尋致シタイコトハ、大  
臣ガ永ク居ラレマシタ勸銀ノ貸付利率ノコ  
トデアリマス、是モ新聞ノ記事ニ基イテ御  
対致シマスガ、耕地整理ハ六分五厘、田畠  
自作農創設維持ニ對シマシテ政府カラ一分  
鹽田ハ六分二厘ニ利下ヲスルト云フコトノ  
記事ヲ見マシタ、今日私共カラ見ルト云フ  
○馬場國務大臣 六厘デスカ

ラ三分八厘位デ出シテ居ルノハ普通デアリ  
マス、尤モ此低利資金ガ間ニ合ヒマセヌ場  
合ニ、一時勸業銀行デ立替ヘテ居リマスモ  
ノモ、今御示シノモノヨリハ餘程安イト考  
ヘテ居リマス、ソレカラ田畠鹽田ノ資金ハ、  
既往ノ貸付ノモノガ今回六分二厘ニ下リマ  
シテ、新規貸付ハ來期ハ六分ヲ割ル程度マ  
デ行クノデヤナイカト考ヘテ居リマス、五  
分臺ニナルグラウト思ツテ居リマス、ソレ以  
上ニ下ダゲテ行キタイト云フノハ私ノ理想デ  
アリマス、追々トサウ云フコトニナラウカ  
ト思ツテ居リマスガ、多分來期ハ五分臺ニナ  
ルノデハナイカト今想像シテ居リマス  
○矢野委員 ソレデハ耕地整理ノ六分六厘  
ト云フノハ私ノ見誤リカ、或ハ新聞ノ記事  
ガ違ツテ居ツタト仰シヤルノデアリマスカ、  
ソレカラ又田畠鹽田ハ今度ノ利下デ六分二  
厘ニナツタト、斯ウ云フ風ニ私ハ新聞ノ記事  
ヲ見タノデアリマスガ、是モ私ノ見誤リデ  
從來ノ貸付ニ付テハ六分二厘ダケレドモ、  
新規ノ貸付ニ付テハ五分臺ニマデ下ゲル  
ト、斯ウ言ハレルノデアリマスカ

ルヤウニ考ヘテ居ル、ソレカラ既往ノ貸付云フヤウナ高イモノハナイ筈デアリマス、殊ニ高利債借替資金、サウ云フモノガ出来テ居リマスカラ、サウ云フモノハ耕地整理ニハナイト考ヘテ居リマス

○矢野委員 ソレデハ耕地整理ノ利率ト田畠鹽田ニ對スル貸付ノ利率トハ、更ニ私モ調査致シテ見マス、ソレカラ次ニヤハリ勸銀ノ貸付デ、宅地建物ハ七分二厘ニ利下ヲシタト云フ、是モヤハリ新聞ノ記事ヲ見マシタガ、是等ハ恐ラクハ主トシテ都會地ノ宅地建物デアラウカト存ジマスルガ、左様ニ心得テ間違ハナイデゴザイマセウカ

○馬場國務大臣 宅地建物ハ總テデアリマシテ、必シモ市制施行地ノミニ限ツテ居ルノデハゴザイマセヌ、ソレカラ舊貸付ハ七分二厘ニ下ルコトニナツテ居リマス、是モ間違ハアリマセヌ

○矢野委員 次ニ御尋ヲ致シテ置キタイノハ、生命保險會社ノ生命保險證券ヲ擔保ニ、保険契約者ニ對スル貸付ノ利率デゴザイマス、是ハ私ハ數社ニ就テ直接ニ取調べテ見タノデゴザイマスガ、非常ニ金利ガ高イノデアリマス、私が申上ゲナクテモ御承知ノ通リニ、既ニ拂込済ノ保險料ノ限度ヲ超ニ

輪ニ貸付ケテ居ルノデスガ、ソレニシテハ  
金利ガ非常ニ高イノデアリマス、其最モ低  
イノハ六分四厘、是ハ相互會社デアリマス、  
其他株式會社デハ六分六厘ガ一番低イノガ  
一ツアリマシテ、大抵七分二厘、三厘ト云  
フヤウナ高イ利率デ、保險契約者ニ金ヲ融  
通シテ居ルノデアリマス、此間カラ組閣以  
來度々御聲明ニナリマシテ、國民生活ノ安  
定ヲ期サネバナラナイト云フコトヲ言ハレ  
テ居リマシテ、私共洵ニ御同感ニ存ジマス  
ガ、此生命保險證券ノ擔保貸付利率ガ非常  
ニ私ハ高イト存ジマスガ、之ニ對シテ大藏  
大臣ハ如何様ニ御考ヘニナッテ居ラレマセ  
ウカ

融機關トシテノ保険會社ニ對シテ、大藏省  
ガ相當ノ權限ヲ用フルヤウニ相成リマスレ  
バ、サウ云フ方面ニ對シテモ、或程度迄ノ  
統制ヲ加ヘテ行クベキモノデハナイカト云  
フ風ニ考ヘテ居リマス





ガ下ツタモノガアル、對物信用デ貸シタモノノ  
モアノ時代ニ對人信用デ貸シタモノハ、大  
ラバスウ云フ仕事ヲヤッテモ大丈夫ダト云  
フヤウナコトハ、始終見テヤッテ居ルノダ  
カラ、サウ云フ風ニヤルナラバ餘リ損害ハ  
シナイト思フ、詰リ自分モ利益ヲ得ナケレ  
バナラヌ、自分モ營業シテ行カナケレバナ  
ラヌカラ、サウ云フ倒レルヤウナ人間ニハ  
中々金ヲ貸付ケラレルモノデハナイ、唯、一  
遍アア云フコトガアツタカラト云ッテ、小サ  
イ銀行ハ預金者ニ非常ニ迷惑ヲ掛ケルカラ  
ラ、斯ウ云フモノハ大キク統制シテ行カナ  
ケレバナラヌト云ッテ、唯金ノ統制ノ爲ニ國  
民ガ折角事業ヲ致サウトシテモ、其仕事ニ  
金融ガモウ少シ圓滑ニ行クヤウニ、何トカ  
方法ヲ考ヘテ、是非是ハヤッテ戴カナケレ  
デヤナイカト思フ、ダカラシテ中流以下ノ  
バナラヌト私ハ思ヒマスガ、之ニ付テ大藏  
大臣ハ何トカ御考ガナイモノカ、之ヲ御伺  
致シマス

行ツテ居ルト云フコトデアレバ、渾ニ結構デアリマスガ、今私ガ一縣一行又ハ二行ト言ヒマシタノハ、地方的ニ渾ニ都合ノ好イ適當ナル金融機關トナス、斯ウ云フ趣旨デ申シタノデアリマス、御承知ノ通り先日モ或席デ申シタノデアリマスガ、昭和二年ノ金融恐慌ノ前ニハ、東京ニハ中流階級ノ商業者工業者ニ都合ノ好イ銀行ガ多々アッタノデアリマス、ソレガ破綻ヲ來シタノデアリマスガ、寧ロ其本來ノ貸付ハ、實ハ今御説ノ如クニ其本來ノ貸付ニ於テハナカツタノデアリマス、寧ロ其本來ノ貸付ノ方面カラ破綻ヲ來シタノデハナクテ、他ノ方面カラ破綻ヲ來シタヤウニ私ハ承知致シテ居ルノデアリマス、サウ云フ中流銀行ガ無クナツタガ爲ニ、中流ノ商工業者ガ資金ノ貸付ヲ受ケル適當ナ金融機關ガ無クナツタ、其爲ニ東京邊リデ、カナリ中流階級ノ商工業者ガ金融ニ窮シテ、金融機關ノ合同ニ對シテ甚ダ不満ヲ持ツテ、何トカ斯ウ云フ方面ノ金融ヲ付ケル途ヲ考ヘテ吳レト云フコトデ、今日中小商工業ノ金融問題トシテ、東京市内デモ非常ニ喧シクナツテ居ル次第ナノデアリマス、私ノ考方ハ要スルニ金融ヲ受ケル方ノコトモ考ヘテ行カナケレバナラナイ、金融機關ト云フモノガ其方面ノ需要ニ應ズルヤウニ、之ヲ監督シ指導ス

○末次委員

○末次委員 私ハ此前ニア、云フ恐慌ヲ來シタコトモ、今大臣ノ言ハレタ通リト思ヒマスガ、ソレハ詰リ監督者タル大藏省ガ少シ監督ヲ怠ッタ結果デハナイカト思フ、其監督ヲ怠ッテ置イテ、銀行ニア、云フ損害ヲ及シテ、愈々何トカシナケレバナラスト云フコトニナルト、國家ガ相當ノ金ヲ出シテ之ヲ補償シテヤル、モウ少シ能ク監督シテ居リサヘスレバ、小サイ銀行ヲ掩ヘテモ、皆自分ノ事業デ自分ガ利益ヲ得テ成立ツテ行クノデスカラ、決シテサウ馬鹿ナ金ノ貸方ハシハセヌト思ヒマス、唯アレヲ纏メラレタコトニ依ツテ、實際中流以下ノ、仕事ヲシテ伸ビヨウト思ツテ居ル人間ガ、ドノ位困ツテ居ルカ、私ハ丁度昭和五年デシタカ丁度アレヲヤラレタ當時ニ、此事ニ付テモ一寸其著書ヲシマシテ、大分書イタ積リデアリマスガ、今頃現ニ斯ウ云フコトガアル、三年モ四年モ手形ヲ取ツテ事實商賣ヲシテ居ル、其銀行トハ相當ノ取引ヲシテ居ル、サウシテ其店ノ手形ハ一過モ不渡ダッタコトガナイ、ソレニモ拘ラズ預金ガ少ナイカラト言ツテ、其手形ヲドウシテモ割引ヲシナイ、ソレハ何故カト云フト、面倒ダカラ、僅カ二

千圓カ三千圓ノモノヲ色々面倒ヲ掛ケテ割  
引シタリ何カスルヨリモ、一口百万圓トカ  
二百万圓ノ手形ヲ割引シテヤル方ガ、利益  
モ其方ガ餘程多イシ、非常ニ個人的關係ガ  
アルナラバ兎ニ角、個人的關係ガナイトス  
レバ、今ミタヤウナコトデモ、殆ド今ノ商  
業銀行ハ割引シテ吳レナイ、サウ云フ例ハ  
幾ラデモアリマス、兎ニ角一寸私ガ先列申  
シタヤウニ、ヤハリ金融機關モ人間ノ資産  
ノ階級ニ依ツテ、詰リ大キナ所ヘ行ツテ、小サ  
イモノヲヤツテ吳レト言ツテモ逆モヤツテ吳  
レハシマセヌ、ダカラ其邊ヲ一ツ御考ヘ置  
ヲ願ヒタイ、ドウシテモ今ダケノ銀行、又  
ハ信用組合ナンカデ一般ノ金融ヲヤラウト  
シテモ、商業工業ノ金融ヲヤラウト言ツテ  
モ、到底行ハレナイ、信用組合ナンカハ――  
今度相當信用組合ニ低利資金ガ出ルヤウデ  
ゴザイマスガ、是モ一般ニハ行キハシナイト  
思フ、又僅カナ金ヲ低利資金デ貸シテヤッタ  
所デ、一般ノ中流以下ノ金ノ要ルト云フコ  
トハ、非常ニ金額ガ多クナルノダカラ、兎  
ニ角ソソナモノヲ僅カヤッタ所デ、本當ニ限  
薬位ニシカナリハセヌカト思フ、兎ニ角ソ  
ンナコトハ營利ノ、ソレニ適合シタ金融機  
關ヲ作ツテ貰フト云フコトガ、一番適切ヂヤ  
ナイカト思フノデアリマス、此邊ハ今申上

ゲテモ仕方ガナイガ、何トカ御考ヲ願ツテ置キタイト思ヒマス

○矢野委員 先刻ノ御尋ニ於テ、地方債ト一  
流社債ニ付テ、大藏省ノ方デ地方債ハ四  
分一厘、一流社債ハ四分二厘ニ大體ニ於テ  
金利ヲ統一サレヨウト云フ御考ガアルト云  
フコトヲ聞イテ居リマスガ、果シテ左様デ

○矢野委員 私共モ、ドウモ大藏大臣ガ今度ヤラレマシタ低金利政策——世間デハ低金利政策ト言フヨリ、寧ロ低金利工作ト云名前ガ、實際ニ當ツテ居ルノデハナイカト云フ風ニ考ヘテ居ルノデス、ト云フノハ餘程大藏省ノ力ガ加ツテ金利ガ下ツダ、下ツタト云フヨリハ寧ロ下ゲタト云フ風ニ私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、今御話ノヤウニ一

フ風ニ、成ベク統一シタイト云フヤウナ御考ヲ、大臣ノ方デ持ツテ居ラレルトスレバ、此金利ガ下ツタノデナクシテ、下ゲタノダト云フ感ジヲ一層深クスルノデアリマスガ、大藏大臣ハドウ云フ風ニ御考ヘニナッテ居ルノデセウカ

情ナノデアリマスカラ、之ヲ一つ外シサヘ  
スレバ、即チ低金利ノ勢ト云フモノハ、ソ  
コマデ追ツテ居ツタノデアリマス、私ハソレ  
ガ故ニ成程或ル意味ニ於テハ低金利工作ト  
云フコトモ言ヘマセウガ、自然ノ状態ヲ無  
理ニ下ゲタト云フノデハナクシテ、實情ガ  
ソコマデ追ツテ居ル、其支ヘヲ外シタト云フ  
コトニ依ツテ、金利ハ低クナルノデアリマ  
ス、御承知ノ通り今日デハ今ノヤウナ金融  
ノ大勢ノ緩慢ナル状態ニ在リ、殊ニ政府ノ  
大キナ國債ヲ發行スル時デアリマスト、ド  
ウ致シマシテモ大體國債ノ利子ト云フモノ  
ガ、金利水準ヲ示スヤウニナルト云フコ  
トハ、當然デアラウカト思フノデアリマ  
ス、ソコデ私ハ金利工作ヲシタト仰セラレ  
テモ、決シテ之ニ異存ヲ申スノデハナイノ  
デアリマスガ、サウ云フ譯ニアリマスカラ、  
人爲的ニ無理ニ低金利ニシタト云フコ  
トニハ、考ヘテ居ラナイノデアリマス、詰  
リ行クベキ金利ノ趨勢ヲ、ソコヘ持ツテ行ツ  
タ、斯ウ云フ風ニ御諒解ヲ戴ク方ガ宜イデ  
ハナイカト思ツテ居リマス

レハ結果カラ見タ議論デアッテ、サウ云フ高橋前藏相ノヤラレタ工作ハ、洵ニ巧妙デアッタト言ハナクテハナラヌト思ッテ居リマス、ドウセ赤字公債デスカラ、日本銀行デ赤字公債ヲ抱ヘテ居ツテ、色々紙幣ヲ政府ニ使ハセル、ソコニ金融緩慢、マア金融「インフレ」トデモ申シマセウカ、サウ云フ状態ガ起キル、サウスレバ自然ト金利ガ下ツテ來ル、其金利ガ下ツテ來タ所デ、日本銀行ガ今大臣ノ言ハレルヤウニ金利ノ標準ト云フモノヲ示ス、次イデ日銀ガ抱ヘテキタ赤字公債ヲ賣却スル、斯ウ云フヤリ方ハ赤字公債ヲ發行シテ行ク上ニハ免レナイ筋道デアリマスケレドモ、今申ス通リニ高橋サンノヤラレタコトハ、洵ニ巧妙デアルト言ハナケレバナルノデアリマセウガ、赤字公債ヲ出サルルト云フコトニナルト、今後モヤハリサウ云フヤウナ方法デ行カナクテハナラヌト思フ、サウスレバ日本ノ金利ハ三分七厘ガ今ハ標準デアルケレドモ、追ツテハ三分五厘ニナリ、三分三厘ニナリ、三分ニナリ、二分半ニナルト云フコトニ行カナクテハナラヌト思ツテ居ル、併ナガラ凡ソ物ニハ限度ガアッテ、中々金融統制ヲサレルト言ヒマシテモ、此十幾億カノ通貨ヲ流通シテ居ル、其

金融統制ハ政府ノ力デハ中々出來ナイ、何

クスルコトガ適當デアラウト思ヒマスシ、  
ルノデアリマス

又増稅ト云フ方面カラ考ヘマシテモ、低金  
利ノ關係ノ方ガ餘程負擔ノ緩和ニナル場合  
モアルノデアリマス、ソレ等ノ色々ノ目的  
ヲ兼ねタル低金利政策ト御承知ヲ願ヒマス  
以上ハ、此低金利政策ヲ採ッタカラト云ツテ、  
何處々マデモ赤字公債ノ増發ヲ期待シテ  
居ルノデモ何デモナインデアリマス、又低  
金利ハ止マル所ヲ知ラズシテドシ～ヤツ  
テ行クト云フヤウナ性質ノモノデハ、是ハ  
ナイト思ヒマス、金利水準ト云フモノハサ  
ウ屢々變ハルト云フコトデハ、到底財界ハ安  
定致シマセヌ、始終思惑ト云フヤウナコト  
ノ爲ニ、種々ノ弊害ヲソコニ生ジ得ルノデ  
モ、能ク金融ノ實勢ニ副ハナイヤウナ人爲  
アリマス、私ハ低金利政策ヲ採ルト申シテ  
ス、併ナガラソレデハ此三分五厘、今日ノ  
利廻リ三分七厘見當ト云フモノヲ釘付ケニ  
シテ、何時マデモ動カサヌノカ、斯ウ云フ  
御反問ヲ受ケマスレバ、サウハ考ヘテ居リ  
マセヌ、將來ノ金融ノ實勢ニ副ウテ、或ハ  
ソレヲ動カス時代ガ來ルカモ知レマセヌ、  
ガ併シ私ハ今日ノ場合、此金利水準デ當分  
之ヲ續行シテ行クコトガ、總テノ方面ニ於  
テ好イ結果ヲ齎スデアラウ、斯ウ考ヘテ居

ノデアリマス  
マスガ、明年ノ春ノ議會ニ於テ增稅ニ失敗  
シタラ——私ガ增稅ニ失敗シタラト言フノ  
ハ增稅ガ全然出來ナカツタト云フ意味デハ  
アリマセヌ、一億ヤ或ハ一億五千万位ノ增  
稅ニ終ツタトスルナラバ、私ハ來年ノ赤字公  
債七八億ト云フモノハ餘程消化難ニ陥ルノ  
デハナイカト、今カラ憂慮シテ居ル一人デ  
債七八億ト云フモノハ餘程消化難ニ陥ルノ  
常ニ増加シテ居ルシ、生產力モ増大致シテ  
フコトガ、非常ニ見透シガ付キ兼ネルノヂ  
ヤナイカト思ヒマス、無論今日ハ輸出モ非  
ハアリマセヌ、唯實勢ガ何處ニアルカト云  
至極私モ御同感デアリマス、無論何等異存  
スルガ爲ニ、低金利政策ヲ採ラレルコトハ、  
ヤツテ行カレルト云フ御考ヲ、持ツテ居ラレ  
ルデアリマセウカ、實ハソコヲ御尋シタイ  
ノデ、低金利政策カ低金利工作カト云フ言  
葉ヲ使ツテ、御尋致シタ譯デアリマス

○馬場國務大臣

私ト致シマシテモ、赤字

公債ノ發行ヲ成ベク減ジタイ、又出來ルナ  
ラ絶滅セシメタイ、斯ウ云フコトニ付テハ  
無論考ヘテ居ルノデアリマス、少クトモ財  
政ノ基礎ヲ鞏固ニシテ行カウトスルノニ  
ハ、決シテ赤字公債ノ増發ヲ望ムモノデハ  
ナイノデアリマス、併ナガラ今日ノ場合ニ  
赤字公債ノ絶滅ヲ何時ヤレルカト云フ見透  
シハ、無論付カナイノデアリマス、又赤字  
公債ガ必ズ漸減スル、斯ウ云フコトヲ期ス  
ルコトモ、餘程困難ナ今日ノ實情ニアル、  
然ル以上ハ兎ニ角赤字公債ノ圓滿ナル消化  
ノミノ目的デハ、無論低金利政策ハナイノ  
デアリマス、低金利政策ハ公債ノ消化ニモ  
固ヨリ大イニ役立ツト思ヒマスガ、少クモ  
産業ノ上カラ考ヘマシテモ、金利負擔ヲ輕

○矢野委員 今御示シノヤウニ產業ノ發展  
ヲ圖ルトカ、或ハ國民ノ經濟生活ヲ安易ニ  
スルガ爲ニ、低金利政策ヲ採ラレルコトハ、  
至極私モ御同感デアリマス、無論何等異存  
スルガ爲ニ、低金利政策ヲ採ラレルコトハ、  
又増稅ト云フ方面カラ考ヘマシテモ、低金  
利ノ關係ノ方ガ餘程負擔ノ緩和ニナル場合  
モアルノデアリマス、ソレ等ノ色々ノ目的  
ヲ兼ねタル低金利政策ト御承知ヲ願ヒマス  
以上ハ、此低金利政策ヲ採ッタカラト云ツテ、  
何處々マデモ赤字公債ノ増發ヲ期待シテ  
居ルノデモ何デモナインデアリマス、又低  
金利ハ止マル所ヲ知ラズシテドシ～ヤツ  
テ行クト云フヤウナ性質ノモノデハ、是ハ  
ナイト思ヒマス、金利水準ト云フモノハサ  
ウ屢々變ハルト云フコトデハ、到底財界ハ安  
定致シマセヌ、始終思惑ト云フヤウナコト  
ノ爲ニ、種々ノ弊害ヲソコニ生ジ得ルノデ  
モ、能ク金融ノ實勢ニ副ハナイヤウナ人爲  
アリマス、私ハ低金利政策ヲ採ルト申シテ  
ス、併ナガラソレデハ此三分五厘、今日ノ  
利廻リ三分七厘見當ト云フモノヲ釘付ケニ  
シテ、何時マデモ動カサヌノカ、斯ウ云フ  
御反問ヲ受ケマスレバ、サウハ考ヘテ居リ  
マセヌ、將來ノ金融ノ實勢ニ副ウテ、或ハ  
ソレヲ動カス時代ガ來ルカモ知レマセヌ、  
ガ併シ私ハ今日ノ場合、此金利水準デ當分  
之ヲ續行シテ行クコトガ、總テノ方面ニ於  
テ好イ結果ヲ齎スデアラウ、斯ウ考ヘテ居

ノデアリマス  
マスガ、明年ノ春ノ議會ニ於テ增稅ニ失敗  
シタラ——私ガ增稅ニ失敗シタラト言フノ  
ハ增稅ガ全然出來ナカツタト云フ意味デハ  
アリマセヌ、一億ヤ或ハ一億五千万位ノ增  
稅ニ終ツタトスルナラバ、私ハ來年ノ赤字公  
債七八億ト云フモノハ餘程消化難ニ陥ルノ  
常ニ増加シテ居ルシ、生產力モ増大致シテ  
フコトガ、非常ニ見透シガ付キ兼ネルノヂ  
ヤナイカト思ヒマス、無論今日ハ輸出モ非  
ハアリマセヌ、唯實勢ガ何處ニアルカト云  
至極私モ御同感デアリマス、無論何等異存  
スルガ爲ニ、低金利政策ヲ採ラレルコトハ、  
ヤツテ行カレルト云フ御考ヲ、持ツテ居ラレ  
ルデアリマセウカ、實ハソコヲ御尋シタイ  
ノデ、低金利政策カ低金利工作カト云フ言  
葉ヲ使ツテ、御尋致シタ譯デアリマス

○馬場國務大臣

私ト致シマシテモ、赤字

公債ノ發行ヲ成ベク減ジタイ、又出來ルナ  
ラ絶滅セシメタイ、斯ウ云フコトニ付テハ  
無論考ヘテ居ルノデアリマス、少クトモ財  
政ノ基礎ヲ鞏固ニシテ行カウトスルノニ  
ハ、決シテ赤字公債ノ増發ヲ望ムモノデハ  
ナイノデアリマス、併ナガラ今日ノ場合ニ  
赤字公債ノ絶滅ヲ何時ヤレルカト云フ見透  
シハ、無論付カナイノデアリマス、又赤字  
公債ガ必ズ漸減スル、斯ウ云フコトヲ期ス  
ルコトモ、餘程困難ナ今日ノ實情ニアル、  
然ル以上ハ兎ニ角赤字公債ノ圓滿ナル消化  
ノミノ目的デハ、無論低金利政策ハナイノ  
デアリマス、低金利政策ハ公債ノ消化ニモ  
固ヨリ大イニ役立ツト思ヒマスガ、少クモ  
産業ノ上カラ考ヘマシテモ、金利負擔ヲ輕

○矢野委員 來年ノコトヲ言フト鬼ガ笑ヒ  
ヲ圖ルトカ、或ハ國民ノ經濟生活ヲ安易ニ  
スルガ爲ニ、低金利政策ヲ採ラレルコトハ、  
至極私モ御同感デアリマス、無論何等異存  
スルガ爲ニ、低金利政策ヲ採ラレルコトハ、  
又増稅ト云フ方面カラ考ヘマシテモ、低金  
利ノ關係ノ方ガ餘程負擔ノ緩和ニナル場合  
モアルノデアリマス、ソレ等ノ色々ノ目的  
ヲ兼ねタル低金利政策ト御承知ヲ願ヒマス  
以上ハ、此低金利政策ヲ採ッタカラト云ツテ、  
何處々マデモ赤字公債ノ増發ヲ期待シテ  
居ルノデモ何デモナインデアリマス、又低  
金利ハ止マル所ヲ知ラズシテドシ～ヤツ  
テ行クト云フヤウナ性質ノモノデハ、是ハ  
ナイト思ヒマス、金利水準ト云フモノハサ  
ウ屢々變ハルト云フコトデハ、到底財界ハ安  
定致シマセヌ、始終思惑ト云フヤウナコト  
ノ爲ニ、種々ノ弊害ヲソコニ生ジ得ルノデ  
モ、能ク金融ノ實勢ニ副ハナイヤウナ人爲  
アリマス、私ハ低金利政策ヲ採ルト申シテ  
ス、併ナガラソレデハ此三分五厘、今日ノ  
利廻リ三分七厘見當ト云フモノヲ釘付ケニ  
シテ、何時マデモ動カサヌノカ、斯ウ云フ  
御反問ヲ受ケマスレバ、サウハ考ヘテ居リ  
マセヌ、將來ノ金融ノ實勢ニ副ウテ、或ハ  
ソレヲ動カス時代ガ來ルカモ知レマセヌ、  
ガ併シ私ハ今日ノ場合、此金利水準デ當分  
之ヲ續行シテ行クコトガ、總テノ方面ニ於  
テ好イ結果ヲ齎スデアラウ、斯ウ考ヘテ居

ノデアリマス  
マスガ、明年ノ春ノ議會ニ於テ增稅ニ失敗  
シタラ——私ガ增稅ニ失敗シタラト言フノ  
ハ增稅ガ全然出來ナカツタト云フ意味デハ  
アリマセヌ、一億ヤ或ハ一億五千万位ノ增  
稅ニ終ツタトスルナラバ、私ハ來年ノ赤字公  
債七八億ト云フモノハ餘程消化難ニ陥ルノ  
常ニ増加シテ居ルシ、生產力モ増大致シテ  
フコトガ、非常ニ見透シガ付キ兼ネルノヂ  
ヤナイカト思ヒマス、無論今日ハ輸出モ非  
ハアリマセヌ、唯實勢ガ何處ニアルカト云  
至極私モ御同感デアリマス、無論何等異存  
スルガ爲ニ、低金利政策ヲ採ラレルコトハ、  
ヤツテ行カレルト云フ御考ヲ、持ツテ居ラレ  
ルデアリマセウカ、實ハソコヲ御尋シタイ  
ノデ、低金利政策カ低金利工作カト云フ言  
葉ヲ使ツテ、御尋致シタ譯デアリマス

○馬場國務大臣

私ト致シマシテモ、赤字

公債ノ發行ヲ成ベク減ジタイ、又出來ルナ  
ラ絶滅セシメタイ、斯ウ云フコトニ付テハ  
無論考ヘテ居ルノデアリマス、少クトモ財  
政ノ基礎ヲ鞏固ニシテ行カウトスルノニ  
ハ、決シテ赤字公債ノ増發ヲ望ムモノデハ  
ナイノデアリマス、併ナガラ今日ノ場合ニ  
赤字公債ノ絶滅ヲ何時ヤレルカト云フ見透  
シハ、無論付カナイノデアリマス、又赤字  
公債ガ必ズ漸減スル、斯ウ云フコトヲ期ス  
ルコトモ、餘程困難ナ今日ノ實情ニアル、  
然ル以上ハ兎ニ角赤字公債ノ圓滿ナル消化  
ノミノ目的デハ、無論低金利政策ハナイノ  
デアリマス、低金利政策ハ公債ノ消化ニモ  
固ヨリ大イニ役立ツト思ヒマスガ、少クモ  
産業ノ上カラ考ヘマシテモ、金利負擔ヲ輕

コトヲ止メテ居ルノデアッテ、國內ニ相當大キナ金ヲ流シテモ、ドシヽ新事業ガ起ルト云フヤウナ大勢ニモナイ、無論相當ニ産業ハ逐次發展ハシテ居リマスガ、其程度ニ於テ私ハ金融ノ大勢ガ今日此現状ヲビドク變ヘルヤウナコトハ、先ヅナイモノト思ヒマス、隨テサウ悲觀的ニ考ヘナイデ宜イヤウニ思ツテ居リマスガ、併シ將來ノコトヲハッキリ申スコトハ差控ヘルベキダト思ヒマス

○矢野委員 今度ノ五分利公債ノ借替ハ、突如トシテ行ハレタ現象ト云フカ、處置ト云フカ、兎ニ角突然ニ行ハレタコトデアッタ、昨年ノ今頃ハ丁度五分利公債ハ百二圓六七十錢カ、七八十錢ノ位置ニアッタト思ヒマス、御承知ノ通リ此間ノ事件前ニハ百五六圓シテ居ツタノデアリマスガ、ソレガ夢ノ如ク三分七厘ニ借替ヘラレタ、サウシテ地方銀行ハ大分打撃ヲ受ケテ居ルヤウニ聞イテ居リマスガ、政府ノ御見込デハ歳入ニサウ打撃ハナイト云フヤウニ見テ居ルノデアリマスカ

○馬場國務大臣 地方銀行等ニ多少ハ五分利ガ三分七厘ニナルト云フコトニ依ツテ、影響ハナイトハ私申上ゲマセヌ、大體銀行アタリデハ公債ノ銷却ト申シマスカ、帳簿價

格ト云フモノハ、相當今日デハ低ク實際ヲ見テアルヤウデアリマス、尤モ地方銀行等ニ於テ、大銀行デ掲ゲテ居ルヤウナ帳簿價格ノ値段トハ、無論多少違ツテ居ルトハ思ヒマスガ、是ハ銀行ノ方ノ監督機關タル大藏省ニ於テモ、時ノ相場通り掲ゲルト云フコトハ到底行ク譯デモナシ、又五分利公債ガ借替ヘラレナイト云フヤウニ考ヘテ居ツタノガ、一般デアッタカト思ヒマスガ、私ハソレガ故ニ低金利政策ヲ執ルト云フコトダケハ早ク實ハ世間ニ發表致シマシテ、大體斯ウ云フ結果ヲ齎スグラウト云フコトノ豫測ヲ一般ノ者ニ早ク懷イテ貰ッタノデアリマス、デスカラ多少影響ガナイトハ申シマセヌガ、其銀行ノ何カ基礎ヲ危クスルト云フヤウナコトノ影響ハ毛頭ナイグラウト思フ、併シ先程モ御質問ノヤウニ無理ニ慌テ急イデ五分利公債ヲドシヽ借替ヘルト云フモ相當ニ行クカモ知レマセヌ、ソレ等ノ點ヲ考慮シツツ進ンデ行カウ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス

○矢野委員 最後ニモウ一點御尋致シマス、金ノ買上ノコトデスガ、金ノ買上値段ヲ高クスレバ御承知ノ通リニ通貨ガ澤山出ルノデ、現在ノ財政狀態トシテ非常ニ都合

ガ好イト考ヘテ居ル一人デアリマス、値上サレタコトニ付テハ何等異存ハアリマセス、併シ斯ウ申シマシテモ私ハ何モ金山ニ關係ヲ持ツテ居ル譯デハナイノデアリマスガ、唯一寸遺憾ニ思ツタノハ四月二十八日ノ東京都下ノ新聞ニ、「金買上値段改訂、大藏省慎重ニ考慮」ト云フ相當詳シイ記事ガアルノデアリマス、此記事ヲ見レバ多少財政經濟ノ知識ヲ有ツモノナラバアア馬場大臣ハ低金利ト併セテ金ノ買上値段ヲ上

ガ、斯ウ云フ記事ハドウシテ出タノカ存ジマセヌケレドモ、大體金ノ買入値段ヲ上げナクチヤナラヌト云フコトハ大臣ガ一時間マセヌケレドモ、大體金ノ買入値段ヲ上げナクチヤナラヌト云フコトハ大臣ガ一時間マセヌケレドモ、大體金ノ買入値段ヲ上げナクチヤナラヌト云フコトハ大臣ガ一時間マセヌケレドモ、大體金ノ買入値段ヲ上げナクチヤナラヌト云フコトハ大臣ガ一時間マセヌケレドモ、大體金ノ買入値段ヲ上げナクチヤナラヌト云フコトモヤハリ私ハ限界ノアルモノデアラウト云フ風ニ考ヘルノデスガ、是ハドノ邊ニ限界ヲ付ケテオイデニナルノデセウカ、或ハ金利ガドンヽ下ルト云フ風ナコトニナレバ換物運動ガ起ルノデハナイカ、金カラ物ヘト云フ風ナ運動ガ起ツテ來ルノデハナイカ、ソレ等ニ付テハドウ云フ風ナ對策ヲ御持チニナルノデセウカ、一寸御尋シタコト思ヒマス

○馬場國務大臣 私ノ何處カデ致シマシタ講演ト今日考ヘテ居ルコトトハ別ニ變ツタシタイト思ツタコトモ大體ソレデ盡キテ居リマスガ、大藏大臣ハ曾テ講演ノ中デ政府カラ段々澤山ノ歳出ガ出ル、ソレガ又公債ルト云フコトハ赤字公債デナイ所謂再生產的ノ效果ガアリマスル公債ヲ發行スルト云

フコトハ是ハ如何ナル時代ニ於テモ決シテ之ヲ厭フ必要ハナイ、其時ノ經濟情勢ニ應ジテヤツテ參ルノデス、併シ所謂歲入補填ノ公債、元來カラ云ヘバ經常財源致シタイモノヲ赤字公債デヤツテ行カウト云フコトハ是ハ其時ノ國內ノ情勢如何ニ依ッテハ已ムヲ得ナイト思ヒマス、例ヘバ昭和七八年ト云フヤウナ時ノ農村ノ匡救ヲ致スト云フ時ハ是ハ無論赤字公債ト云フコトヲヤラナケレバ國家方收マラヌ時デアリマス、又一旦戦争デモ起ツタヤウナ場合ハ無論ヤリマス、併シサウデナイ場合ニ所謂赤字即チ歲入補填ノ公債ト云フモノヲ餘計出スト云フコトヲ誰モ喜ブ者ハナイ、併ナガラ今日ノ國家ノ實情カラ申セバ國防費其他國民生活ノ安定ト云フヤウナコトニ政府ガ力ヲ用ヒテ行カナケレバナラヌ時ニハドウシテモ是ハ赤字公債ヲ出シテデモ國ノ財政ヲ處理シテ行カナケレバナラヌノデアリマシテ、是ハ當然政府ガ爲スキコト考ヘテ居リマス、併シ是ガ無限ニ發行シテ行クト云フコト望ム者ハ勿論ナインデス、政府ノ經常財源即チ自然增收ノ成ベク増加スル政策ヲ執リツツ、赤字公債デナク一般ノ財源若クハ所謂再生産的ノ效果ノアル公債トシテ出

シテ行クダケデ済ム時代ノ實現ヲ期待シテ進ミタイト思フ、然ラバ當分ノ間此赤字公債ヲ發行シテ行カナケレバナラヌト思フ、サルカ、ソレデ行詰ルノデハナイカ、斯ウ仰シヤラレバ私ハ行詰ルコトノナイヤウニシテ行クト云フ風ニ申上ゲル外ハナイ、日本ノ財政ガ行詰ルト云フヤウナコトヲ今悲觀的ニ考ヘルコトハ避ケタイト思フ、或ハ之ヲ批評的ニ見テ行詰リハシナイカト仰シヤルカモ知レマセヌガ、私トシテハ行詰ラヌダケノ有ユル努力ヲ致スト云フコトニ努メネバナラヌノデアリマス、ソレカラ低金利、是モ私ハ限度ガアルト思ヒマス、無暗ニ金利ガ安イノミガ宜イトハ思ヒマセヌ、餘リ所謂低金利ガ進ムト云フコトニナレバ、或ハ貯蓄心ト云フモノヲ減退セシメ、或ハ今仰シヤル通リ金カラ物ヘト云フヤウナコトノ爲ニ物價ノ暴騰ヲ來タスト云フコトニナッテモ困ルノデアリマス、併ナガラ大體金利ト云フモノハ申上ゲルマデモナク其時代ノ經濟ノ實勢カラ出テ來ル譯デアリマス、デアリテ、是ナドニ付テモ何カ具體的ナ對策ナシカ、是ナドニ付テモ何カ具體的ナ對策ガアルノナラ、ソレヲ一ツ承リタイ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス

○馬場國務大臣 公債ノ消化ガ行詰ルト云フコトヲ、私ハ今日考ヘテ居リマセヌノト考ヘタクナインデアリマス、唯若シ公債ノ消化ガ行詰ルト云フ意味ガ、唯自然ニモ私ハ考ヘルノデアリマス、其限度ガ何處ニアルカト云フコトハ其國々ノ經濟ノ實勢ニアルノデアッテ國ニ依ッテ達ヒ、時代ニ依ヅテ違フ、限度ガアルト云フコトハ私ハアルト信ズル譯デアリマス

○川村委員 私ノ御尋シマシタノハ、公債のニ考ヘルコトハ避ケタイト思フ、或ハ之ヲ批評的ニ見テ行詰リハシナイカト仰シヤルカモ知レマセヌガ、私トシテハ行詰ラヌダケノ有ユル努力ヲ致スト云フコトニ努メ、ネバナラヌノデアリマス、ソレカラ低金利、是モ私ハ限度ガアルト思ヒマス、無暗ニ金利ガ安イノミガ宜イトハ思ヒマセヌ、餘リ所謂低金利ガ進ムト云フコトニナレバ、或ハ貯蓄心ト云フモノヲ減退セシメ、或ハ今仰シヤル通リ金カラ物ヘト云フヤウナコトノ爲ニ物價ノ暴騰ヲ來タスト云フコトニナッテモ困ルノデアリマス、併ナガラ大體金利ト云フモノハ申上ゲルマデモナク其時代ノ經濟ノ實勢カラ出テ來ル譯デアリマス、デアリテ、是ナドニ付テモ何カ具體的ナ對策ナシカ、是ナドニ付テモ何カ具體的ナ對策ガアルノナラ、ソレヲ一ツ承リタイ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス

○武田委員 私モ大藏大臣ニ低金利ノ問題ニ付テ、御伺シタイト思ツテ居ツタノデアリマスガ、今矢野君モ其點ニ觸レラレマシテ、大藏大臣ノ御意向ヲ大體承ツタノデアリマスガ、實ハ私ノ初メ豫想シテ居リマシタ事柄ト、大藏大臣ノ只今矢野君ニ對スル御答辯ヲ承ツテ、奇異ノ感ヲ懷クノデアリマス、大藏大臣ガ低金利ヲ實行サレマシタ當時、大藏大臣ノ御意向トシテ新聞ニ出テ居リマス所ナドヲ、綜合致シマスルト云フト、私ハ此金融ノ實勢ニ拘ラズ、金利ヲ引

下ゲテ、之ヲ統制ノ力ニ依ツテ維持シヨウ  
ト云フ御考デアルノデアラウカト云フ風  
ニ、實ハ考ヘタノデアリマス、ソレデ主ト  
ハナイ低金利ヲ、統制ノ力ニ依ツテ維持シ  
得ルモノデアラウカドウカ、維持シ得ルト  
致シマシタラ如何ナル方法ヲ御講ジ下サル  
御見込デアラウカト云フヤウナコトヲ、寧  
ロ伺ヒタイト思ツタノデアリマス、然ル所今  
承リマスレバ、大藏大臣ノ御意向ハ金利ノ  
實勢ニ即シテ低金利工作ヲシタノデアル、  
斯様ナ御意見デアルノデアリマシテ、果シ  
テ左様ナコトデアリマスルナラバ、何等憂  
フル所ハ實ハナイノデアリマスケレドモ、  
私ノ見ル所ヲ以テ致シマスルト、我國ノ現  
在ノ金融界ノ實勢ハ、低金利ニ寧ロ反シタ  
情勢デナカツタカト云フ風ニ、實ハ思フノデ  
アリマス、念ノ爲メ此點ヲモウ一遍伺ツテ、  
ソレカラ次ニ私ノ質問ヲ申上ガタイト思ヒ  
マス

リ方々ニ所謂此頃ノ言葉デ謂フ摩擦ト云フモノガ生ズルノデアリマス、私ハ實勢ニ反シナイ、實勢ヲ無視シナカツタ云フコトデ、大體ニ大シタ摩擦ナク、低金利ガ都合好ク行ツテ居ルヤウニ私ハ見テ居リマス  
○武田委員 然ラバ進ンデ少シク御伺シナケレバナラヌノデアリマスガ、大藏大臣ノ先程ノ御言葉ノ中ニ、前高橋大藏大臣ノヤラレタ工作——同巧異曲ノ工作ヲシタニ過ギナイノデアル、高橋前大藏大臣モアノ低金利政策ヲ御實行ニナルノニハ、今御話ノ如ク郵便貯金ノ大幅ノ引下ヲシ、其他日本銀行ノ標準金利モ引下ゲ、公債モ五分ヲ四分五厘ニ、更ニ四分ニシタト云フヤウナコトヲサレタト同ジ意味ニ於テ、此低金利ヲ此度實行スルノデアルト云フ今御説明デアリマシタ、成程形ノ上カラ見マスルト大藏大臣ノ仰シヤル通リデアリマス、併ナガラ私ハ此點ニ付キマシテハ、高橋前大藏大臣ノヤラレタコトハ、金利ノ實勢ガ低金利ニ行クベキ趨向ヲ見テ、唯ソレヲ「リード」シタト云フニ止マツテ居ルノデハアルマイカ、殊ニ私ハ前大藏大臣高橋サンノ財政々策ニ付テハ、反對ノ意向ヲ持ツテ居ルモノデアリマスルケレドモ、此金利政策ニ付テハ流石ニ金融ノ第一人者デアルダケニ、洵ニ巧

妙ナ御處置ヲ執ラレタモノトシテ、今日尙  
ホ私ハ其點ニ向ツテハ感服ヲ禁ジ能ハナイ  
者デアリマス、殊ニ前大藏大臣ノ高橋サン  
ハ、御承知ノ通リ人ノ値打ハ高ク物ノ値打  
ハ安クト云フ一種ノ哲學カラ、常ニ低金利  
ヲ助長サレタ方デアルノデアリマス、左様  
ナ低金利ノ主張者デアリ金融ノ學術的ニ於  
テモ實際的ニ於テモ第一人者タル此高橋前  
大藏大臣ガ、低金利ヲ助長シ希望シ實行シ  
テ居ツタ其高橋サンガ、最近ニナツテ四分ニ  
公債ヲ下ゲル——金利ノ標準ヲ下ゲルト云  
フコトニ向ツテ、非常ナ慎重ナル態度ヲ執ラ  
レタト云フコトニ付キマシテハ、失禮ナ申分  
カ知レマセヌガ、馬場サンニ於カレマシテ  
モ其點ハ御考慮ニ入レラルベキデナカッタ  
カ、又吾々モ金融ノコトヲ論ズルニ當リマ  
シテハ、此高橋サンノ用意周到ナル心構ニ  
付テハ、深キ根據ノアルコトヲ考ヘテ見ナ  
ケレバナラヌノデハナイカ、斯様ニ實ハ考  
ヘルノデアリマス、ソコデ私此低金利ノ問  
題ヲ考ヘテ見ルノニハ、然ラバ昭和七年以  
來低金利ガ實行サレタ、其客觀的情勢ヲ先  
づ考ヘテ見ナケレバナラヌト思ヒマス、ソ  
レ等ノコトヲ申上ゲルト時間ヲ要スルコト  
デアリマスカラ、極ク搔イ摘ンデ申シマス、  
是ハ私ガ申スト云ヒマシテモ私ノ意見ヲ申

スノデハナイ、今日迄ノ此低金利ガ誘導サ  
際家竝ニ「ジャーナリズム」ノ「エキスピ－  
ト」ト謂ハレル方々ノ意見、ソレ等ヲ私ノ  
出來得ル限り承ッタリ、又研究シマシタ結  
果、大體ニ於テ世間ノ一致シテ居ル點ヲ見  
マスルト、先づ第一ハ赤字公債ノ發行、或  
ハ外國貿易ノ盛シニナツタコト、是ガ普通  
ニ認メラレテ居ル點デアリマス、更ニ最モ  
注意ヲ要スベキ點トシテ一般ニ認メラレテ  
居ル事柄ハ、昭和八年以來大分産業ガ比較  
的盛ニナリマシテ、資金ノ需要ハ殖工テ  
參ッタノデアリマスケレドモ、其當時ハ增  
産ナドノ爲ニ生産設備ガ非常ニ過剰ニナツ  
テ居ツタコトハ、是ハ世間周知ノ事實デア  
リマス、隨テ産業ガ盛ニナツタ割合ニ、資  
金ガ要ルコトガ少クナツタノデアリマス、  
是ハ私ハ我國ニ於テ昭和七年以來低金利  
ヲ促進シマシタ所ノ重大ナル「ポイント」  
デアリ、又力デアッタラウト思フ、然ルニ  
ト云フコトハ、全然ナイノデハアリマセヌ  
ケレドモ、非常ニ少クナツテ來タヤウニ思  
ヒマス、或ハ人絹若クハ「セメント」等ニ付  
テハマダ多少アルデアリマセウ、ケレドモ  
其他ノ是カラ最モ將來ニ進マナケレバナラ

又民間ニ於テモ是等ノ生産設備ト云フモノハ  
ニ向ッテ、相當多額ノ資金ヲ要求スル時代  
ニ、今日ハナツテ來テ居ルヤウニ私ハ思フ、  
既ニ昨年アタリカラ金利ハ一般ニ底ヲ突イ  
サウシテ現ニ貸出ハ増加致シマシタガ、預  
カト云フヤウナコトハ言ハレテ居リマス、  
タコトハ、是ハ大藏大臣御承知ノ通リデア  
リマス、又最近ニナリマシテ大藏大臣ガ頻  
ニ低金利ヲ主張致サレマシテ、既ニ實行ニ  
御著手ニナツタ後ニ於キマシテモ、證券業者  
ノ「シンヂケート」ニ於キマシテハ、飽マ  
デ四分三厘ノ社債ヲ標準トシテ、ソレヲ維  
持シヨウト云フヤウナコトヲ決議ヲ致シテ  
居リマス、是ハ何ヲ意味スルモノデアルカ  
ト云フト、將來ニ於テ果シテ低金利ト云フ  
コトハ進ムノデアルカドウカト云フコトニ  
向ッテ、彼等ガ、實際家ガ、非常ニ疑ヲ持ッテ  
居ル、又銀行ノ預金利子ニ付テ見テモサウ  
デアリマス、昨年來寧ロ一昨年來低金利ノ  
預金利子ハ甲種銀行ニ於テ三分七厘ハ、到

底支へ切レナイト云フコトハ、屢々經濟評論家ガ言ツテ居リマス、現ニ昨年アタリハ御承知ノ通り銀行間ニ於テモ此預金利子ヲ引下ゲヨウカ、引下ゲマイカト云フコトデ、幾多ノ議論ガアツタ、現ニ有力ナル三井銀行ニ於テモ預金利子ヲ引下ゲヨウト言ツテ居タガ、大勢ハ引下ガ出來ナイト云フ議論ガ勝ヲ制シテ、最近マデ此預金利子ノ引下ハ實行ガ出來ナカッタ、是ハ如何ナルコトヲ意味スルモノデアリマセウカ、若シ金融界ノ實勢ガ低金利ニ赴クモノデアラウト考ヘテ居ルナラバ、既ニ此採算ガ合ハナイヤウナ狀態ニナツテ居ルノニ、此預金利子ノ引下ニ當ツテ躊躇スルコトハ、實際ノ金融ノ途ニ當ツテ居ル實際家ノ見當ハ、同ジク低金利ト云フコトニハ如何様ナル狀態ニナルカト云フコトニ對シテ、非常ナル疑問ヲ持ツテ居ル、寧ロ低金利ガ底ヲ突イタノデハナイカト云フ考ガ、此金融業者ノ頭ニアツタノデハナイカト云フコトモ、私ハ考ヘラレルノデアリマス、又只今大藏大臣ハ滿洲ノ投資ハ勿論進ムデアラウ、又之ヲ進メナケレバナラヌトスウ仰シヤッタ、現ニ六日口ノ豫算ノ御説明ノ中ニモ、滿洲ノ投資ニ對シテハデアリマスカラ、是ハ相當ニ進ムデアリマス政府ハ有ユル便宜ヲ與ヘルト仰シヤッタノ

セウ、又吾々モ進ムコトヲ希望致シマス、  
臣ハ、成程滿洲ノ投資ハ多ク上ルデアラウ、  
併ナガラソレハ金デ行クノデナクシテ物デ  
行クノデアル、斯ウ云フ御説明デアル、ソ  
レハ吾々モサウ思ヒマス、今日ノ實際モサ  
ウデアリ、將來モ亦斯クナケレバナリマセ  
ヌ、併ナガラ物デ行クニセヨ、其物デ送ル  
人ト、資金ヲ投ズル人トハ同一ノ人デハナ  
イノデアリマス、是ハ同一ノ人ナラバ其金  
融關係ニ於テハ大藏大臣ノ仰シャル通リデ  
アリマセウガ、私ハソレハ大藏大臣ノ御考  
ノヤウニ果シテ行クモノデアルカドウカト  
云フコトニ向ツテ、多大ノ疑ヲ有ツテ居ルモ  
ノデアリマス、成程通貨ニ於テハ變リハア  
リマスマイケレドモ、其通貨ノ持主ガ、必  
ズ變ツテ來ナケレバナラスト私ハ思ヒマス  
カラ、滿洲ノ投資ガ殖エテ日本ノ金融、  
即チ日本ノ金利ニ影響ハナイト御斷定ニナ  
ルコトハイカヌデアラウト思ヒマスガ、是  
等ノ點ニ向ツテ御説明ヲ願ヒタ、昨年高橋  
前大藏大臣ガ滿洲投資ヲ制限スルト云フヤ  
ウナ御議論ヲ、閣議デナサレタト云フコト  
デ、御承知ノ通り議會デ其事ガ一つノ問題  
ニナツタ、若シ高橋前大藏大臣ガ、滿洲ニ投

スナラバ、左様ナコトガ問題ニナル筈ガ  
ナイト思ヒマス、尤モ議會ニ於ケル高  
橋前大藏大臣ノ御説明ハ、餘リ満洲ニ  
資金ヲ餘計授ズルト云フト、日本ノ爲替ニ  
影響スルト云フ御説明デハアツタノデアリ  
マス、併ナガラ私ハサウ云フ點ニモ御懸念  
ニナツタカ知レマセヌガ、ヨリ多ク金融ノ關係  
係、或ハ赤字公債ノ消化ノ點ニ於テ御考ニ  
ナツタノデヤアルマイカ、斯様ニモ實ハ考ヘ  
テ居リマス、次ニ低金利ニ關シタコトトシ  
テ、モウ一つ吾々注意シナケレバナラヌコ  
トハ、七年八年ニ於キマシテハ御承知ノ通  
リ非常ニ日本ニハ「ストック」ガ多カツタ、有  
ユル方面ニ於ケル産業ノ「ストック」ガ非常  
ナ高ニ上ツテ居リマシタ、然ルニ八年以來景  
氣ガ回復シマシタ結果トシマシテ、此「ストッ  
ク」ガ大體一掃サレタ、一掃ト云フノハ語弊  
ガアルカモ知レマセヌガ、大體ニ於テ消化  
サレタノデアリマス、是ガ資金ヲ緩カニシ  
タ重大ナル原因デアツタラウト思フノデア  
リマス、是等ヲ綜合シテ見マスルト、高橋  
前大藏大臣ノ低金利ヲ「リード」ナサル場合  
ニ於キマシテハ、ドウシテモ低金利ニナル  
ベキ趨勢ガ十分ニ熟シテ居ツタ所ヘ此金利ヲ「リード」

サレマシタカラ、無難ニ是ガサウ云フ風ナ  
實情ガ現レテ來タノデヤナイカ、斯様ニ私  
ハ解釋致シテ居ルノデアリマス、今又馬場  
大藏大臣ハ實勢ニ即シタ低金利ヲヤッタノ  
デアルカラ、何等ノ摩擦ガナカッタ、斯ウ仰  
シヤル、是ハ私ハ失禮ナ申分デアリマス  
ガ、馬場大藏大臣ハ日本ノ產業竝ニ金融界  
ノ爲ニ、一ツ御考慮ヲ願フベキ點デアルマ  
イカ、成程馬場サンハ低金利ト云フモノヲ  
非常ニ高唱サレマシテ、公債ノ三分利ハ當  
然ダト言ハンバカリナ情勢デ、其標準金利  
ノ日本銀行ノ割引標準ヲ御引下ゲニナリ、  
又公債ノ發行條件ヲ御引下ゲニナル、サウ  
シテ自ラハ此日本銀行ノ割引標準ヲ御引下  
ゲニタ時ニ、大藏大臣ノ御聲明トシテ、  
今後ハ金利ヲ「リード」スルコトニ向ツテハ  
大藏大臣ガ全責任ヲ帶ビル、元來標準金利  
ノ上ゲ下ゲハ日本銀行ノ責任トシテヤルベ  
キ事柄デアッタノデアリマス、立前トシテハ  
サウデアッタ、併シ今度ハ政府ガ之ヲ「リー  
ド」シテ、其善シ惡シノ責任ハ大藏大臣ガ  
帶ビルトマデ御言明ニナッタ、是ガ金融界、  
財界ニ非常ナ私ハ刺戟ヲ與ヘタト思フノデ  
アリマス、既ニ此儘デ行クナラバ、モウ公  
債ノ利率ハ三分四厘ニナルコトハ當然ダト  
云フコトハ、一般ノ頭ニ響イテ居ツタノデ

アリマス、此金融ニ對シテ政府ノ力ガ非常  
ニ加ハッテ居ル今日ニ於キマシテ、大藏大臣  
ヤウナ場合ニ於キマシテハ、一般ノ人々ハ  
一時的ナリトモ低金利ガ實行サレルト云フ  
コトヲ考ヘマスルカラ、先程矢野君モ御述  
ベデアリマシタガ、三分ノ公債ハ當然ダト  
思テ居ル時ニ、三分五厘ノ公債ガ出レバ、  
競ツテ之ニ應ズルト云フコトハ當然デアリ  
マス、又將來借替ガ實行サレルト云ヒマス  
ルカラシテ、日本銀行ニ向ツテ公債ノ買付  
ガ盛ニナルト云フコトハ、是ハ當然デア  
ル、是等ノ事實ヲ見テ摩擦ナク行ツタト云  
フコトヲ御考ニナルノハ、如何ナモノデア  
ラウカト私ハ考ヘル、彼此レ尙ホ申上ゲマ  
スト非常ニ長クナリマスカラ、極ク大摑ミ  
ニ申シタノデアリマスルガ、私ハ成程形ニ  
於テハ馬場大藏大臣ノ低金利實行ノ御工作  
モ、前高橋大藏大臣ノ御工作モ、似テ居ル  
點ハ十分ニアリマスルケレドモ、眞ニ金利  
ノ實勢ニ向ツテ十分ナル御觀察ヲ爲スッタ  
云フ點ニ至ツテハ、必シモ同一デハナカラウ  
ト、斯様ニ私ハ考ヘルノデアリマス、果シテ  
實勢ニ即シタト大藏大臣ガ仰シヤルノハ、

臣ノ責任ヲ以テヤルゾト迄、御言明ニナル  
テ是ガ半年ナリ一年ナリ後ニ於テ、反動ガ  
來タト云フコトニナリマスルナラバ、日本  
ノ金融界ニ非常ナル恐慌ヲ來スト云フコト  
ハ、是ハ見易キ道理デアリマス、其場合ニ  
コトヲ考ヘマスルカラ、先程矢野君モ御述  
ベデアリマシタガ、三分ノ公債ハ當然ダト  
思テ居ル時ニ、三分五厘ノ公債ガ出レバ、  
競ツテ之ニ應ズルト云フコトハ當然デアリ  
マス、又將來借替ガ實行サレルト云ヒマス  
ルカラシテ、日本銀行ニ向ツテ公債ノ買付  
ガ盛ニナルト云フコトハ、是ハ當然デア  
ル、是等ノ事實ヲ見テ摩擦ナク行ツタト云  
フコトヲ御考ニナルノハ、如何ナモノデア  
ラウカト私ハ考ヘル、彼此レ尙ホ申上ゲマ  
スト非常ニ長クナリマスカラ、極ク大摑ミ  
ニ申シタノデアリマスルガ、私ハ左様デナ  
ウナ御觀測デアリマスルガ、私ハ左様デナ  
イト信ズル理由ハ、先程モ其點ニ付テ少シ  
ク觸レタノデアリマスガ、先程銀行ノ預金  
等モ今日減ツテ、貸出ガ增加シテ居ルト云フ  
御言葉モアッタノデアリマスガ、私共ノ調べ  
テ大藏大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト存ジマ  
ス

如何ナル點ヲ目指シテ仰シヤルノデアリマ  
ス、普通銀行、貯蓄銀行ニ付テ見マシテモ、  
即セザル低金利ヲ實行サレマシテ、實勢ニ  
作ニ向ツテハ、日本銀行ノヤルコト迄大藏大  
臣ノ責任ヲ以テヤルゾト迄、御言明ニナル  
ヤウナ場合ニ於キマシテハ、一般ノ人々ハ  
一時的ナリトモ低金利ガ實行サレルト云フ  
コトヲ考ヘマスルカラ、先程矢野君モ御述  
ベデアリマシタガ、三分ノ公債ハ當然ダト  
思テ居ル時ニ、三分五厘ノ公債ガ出レバ、  
競ツテ之ニ應ズルト云フコトハ當然デアリ  
マス、又將來借替ガ實行サレルト云ヒマス  
ルカラシテ、日本銀行ニ向ツテ公債ノ買付  
ガ盛ニナルト云フコトハ、是ハ當然デア  
ル、是等ノ事實ヲ見テ摩擦ナク行ツタト云  
フコトヲ御考ニナルノハ、如何ナモノデア  
ラウカト私ハ考ヘル、彼此レ尙ホ申上ゲマ  
スト非常ニ長クナリマスカラ、極ク大摑ミ  
ニ申シタノデアリマスルガ、私ハ成程形ニ  
於テハ馬場大藏大臣ノ低金利實行ノ御工作  
モ、前高橋大藏大臣ノ御工作モ、似テ居ル  
點ハ十分ニアリマスルケレドモ、眞ニ金利  
ノ實勢ニ向ツテ十分ナル御觀察ヲ爲スッタ  
云フ點ニ至ツテハ、必シモ同一デハナカラウ  
ト、斯様ニ私ハ考ヘルノデアリマス、果シテ  
實勢ニ即シタト大藏大臣ガ仰シヤルノハ、

寧ロ昭和十年四月カラ十一年三月ニ至リマ  
ス迄ニ殖エタ金額ノ方ガ、相當殖エテ居ル  
ノデアリマス、數字的ニ申セバ、前一年間

三月ニ至リマス間ニ殖エマシタ預金ノ増加  
額、普通銀行、貯蓄銀行ニ付テ見マシテモ、

寧ロ昭和十年四月カラ十一年三月ニ至リマ  
ス迄ニ殖エタ金額ノ方ガ、相當殖エテ居ル  
ノデアリマス、數字的ニ申セバ、前一年間

三月ニ至リマス間ニ殖エマシタ預金ノ増加  
額、普通銀行、貯蓄銀行ニ付テ見マシテモ、

タモノト云フコトニハナラヌト考ヘテ居ツ  
タノデアリマス、今日モ無論左様ニ考ヘテ  
居ル譯デアリマス、ソレカラ日本銀行ノ金  
利ノ引下ト云フコトモ、勿論是ハ日本銀行  
ト大藏省トガ、十分ニ協議ヲ致シマシテヤ  
ル仕事デアリマシテ、大藏大臣ガ之ヲ無論  
「リード」スルト申シテモ、日本銀行ガ金融  
ノ實勢ニ即セザルコトヲヤル譯ノモノデハ  
固ヨリナイ譯デアリマス、ソレハ實際ナノ  
デアリマス、斯ウ云フ點カラ考ヘマシテ、  
私ノ執リマシタル金融政策ナルモノハ、金  
融ノ實勢ヲ無視シタモノデナイト云フコト  
ニ、私ハ考ヘテ十分宜イト思ッテ居ルノデア  
リマス、ソレカラ對満投資ニ付テ、前高橋  
大藏大臣ノ言ハレマシタコトハ、議會ニ於  
テハドウ御説明ニナツテ居ルカ存ジマセス  
ガ、私ノ聞及ンデ居ル所デハ、要スルニ、  
不健全ナル投資ヲスルト云フコトニ對シテ  
ハ、絶対ニイカヌト云フ御考ガ基礎デアッタ  
ヤウニ聞イテ居ルノデアリマス、私ハ對満  
投資ト云フコトニ對シテ、之ヲ援助シタイ  
ト云フ意味ノ考ヲ議會ノ本議場ニ於テ説明  
致シマシタ通り、健全ナル投資、例ヘバ満  
鐵ノ社債ト云フヤウナモノニ付テ、從來政  
府ハ殆ド預金部等ニ於テモ之ヲ引受ケタヤ

ウナコトモナインデアリマスガ、今後預金  
部ニ餘裕ガアリマスレバ、満鐵ノ社債モ或  
ル程度マデ之ヲ引受ケテ行ツテ宜イ、或ハ満  
洲ノ國債ト云フヤウナモノニ付テモ、出来  
ルダケ之ヲ助ケテ行キタイ、斯ウ云フコト  
ヲ考ヘテ居ル、其點カラ申シタノデアリマ  
ス、又満洲ニソレデハ非常ニ今後投資ト云  
フモノハ大ニアルダウカト云フ方面カラ  
言ヒマスト、既ニ今日マデノ所デ、大體ニ  
於テ此ナント申シマスカ、基礎工作的ノ對  
満投資ノ大キナモノハ、餘程一ト渡リ瓦ツテ  
居ルヤウニ私ハ承知致シテ居ルノデアリマ  
ス、無論満鐵モ、今後相當ニ満洲デ仕事ヲ  
シテ參リマスルカラ、満鐵ノ社債等モ今後  
モ引續イテ出ルトハ思ヒマスルガ、非常ナ  
大キナ満洲投資ト云フモノハ、今後遠キ將  
來ハ別デアリマスガ、近キ將來ニ於テサウ  
云フコトハ餘リナイヤウニ思フ、マアソン  
ナ所カラ見マシテ、私ノ今執ツテ居リマス政  
策ガ行詰ルヤウニハ思ハレマセヌト、先  
刻モ申上げマシタ通り、政府ノ歳出金額ト  
云フモノハ相當ニ年々大キナモノガ今投ゼ  
ラレテ居ツテ、而シテソレハ海外ニ出ラレナ  
マスノデアリマスルカラ、少クトモココ當  
イト云フ資金ナンデアリマス、此儘デ進ミ  
分ノ間、ヤハリ金融ノ實勢ハ緩慢ヲ持続ス

ガ、緩慢ト云フヨリモ、相當ニ内地ニ資金ニ  
ニ銀行其他ニ廻リマス、是ハ若シ産業ガ大  
イニ發展デモ致シマスレバ、洵ニ結構ナン  
デアリマス、其場合ニハ國家ノ收入モ大モ  
ニ増シマス、隨テ政府ノ赤字公債ト云フモ  
ノモ減額サレルト云フコトハ、非常ニ都會  
好クナルノデアリマス、旁々以テ低金利政策  
ガ金融ノ實勢ニ即シテ進ンデ參ルト云フコ  
トデアルナラバ、不都合ナク行ケルデアラ  
ウ、斯ウ私ハ見テ居ル譯デアリマシテ、別  
ニ私ハ高橋前大藏大臣ノ執ラレマシタ政策  
ト、特ニ異ツタ政策ヲ執ツタ譯デナク、金融  
ノ實勢ニ即シテ進ムト云フ意味ニ於テハ  
變ツテ居ラスト思ヒマス

預金ノ増加スル率ガ減ツテ貸出ガ漸次殖工  
云フコトデアリマス、是ハ低金利ノ實勢デ  
アルト云フ大藏大臣ノ御説明ニハ、私ハ多  
少ノ疑ヲ挾マザルヲ得ナイノデアリマス、  
ガソレハ鬼モ角ト致シマシテ、今度ハ大藏  
大臣ノ御意見ニ依リマスト、將來軍備ノ擴  
張ト云フコトハ、今日ノ實情已ムヲ得ナイ、  
相當ナ增額ヲスルデアラウト云フ御意見デ  
アルノデアリマス、然ルニ今日我國ノ軍需  
工業ノ實勢カラ見マスト、殆ド手一杯ト言シ  
テ宜シノデアリマス、現ニ或ル人々ハ軍  
部デ軍備ヲ擴張スル爲ニ金ガ要ルト言フケ  
レドモ、ソレニ致ズルダケノ生産能力ガア  
レバ宜イガ、寧ロ我國ノ現在ノ生産能力ニ  
制限サレテ、軍部ハ軍備ヲ擴張シヨウトシ  
テモ出來ナイノデハナイカト云フ議論サ  
ヘ、一部ニアルノデアリマス、サウシマス  
ト、軍備ノ擴張ハ已ムヲ得ナイ、其爲ニ資  
金ヲ要スルコトハ已ムヲ得ナイ、斯ウ前提  
致シスマスルナラバ、ドウシテモ重工業其他  
ニ向ツテ、思ヒ切ツタ生産設備ノ行ハレルト  
云フコトハ、是ハ當然デアリマス、隨テ其  
方ニ資金ノ流入スルヤウニ、又政府トシテ  
ハ便宜ヲ御與ヘニナル位デナケレバナラヌ  
狀態デハアルマイカト私ハ考ヘマス、又先

程モ一寸申上ゲマシタヤウニ、今日ノ工業  
ノ一番主ナル動力ハ電氣デアリマス、今日  
ハ電氣ハ非常ナ不足ヲシテ居ルノデアリマ  
シテ、ドウシテモ此生産ノ發達ニ伴フダケ  
ノ電力ヲ供給スルト致シマシテハ、御承知  
ノ如ク電力事業ニハ固定資本ガ非常ニ澤山  
割合ニ要ルノデアリマス、是等ヲモ亦圓滑  
ニ供給シナケレバナラヌト云フ實情ハ、眼  
ノ前ニ見エテ居ルノデアリマス、又ソレノ  
ミナラズ、此人絹ニ致シマシテモ紡績ニ致  
シマシテモ、是等ハ寧ロ生産設備ガ多イ產  
業デアリマス、然ルニモ拘ラズ、外國貿易  
ガ頭重ノ狀態ニナリマシテ、更ニ生産費ヲ  
下ゲナケレバナラヌト云フ實情ニ迫ツテ居  
ルコトハ、私ノ申上ゲルマデモナク大藏大  
臣御承知ノ通リデアリマス、隨テ近來私ノ  
知ツテ居ル限リニ於キマシテハ、紡績業ナド  
ニ於キマシテ頻ニ此生産設備ノ更新ヲ圖ツ  
テ居リマス、古イ設備ヲ廢棄シテ、新シイ  
設備ヲ到ル處デ今日ハヤツテ居リマス、此爲  
ニモ亦少ナカラヌ資金ヲ要スル狀態ニナッ  
テ居リハスマイカト、私ハ斯様ニ考へルノ  
デアリマス、ソレニ今御話ノ満洲ノ投資、  
成程滿洲ノ投資ハ、餘計ナカラウガト云フ  
御意見デアリマスルナラバ、是ハ此前ノ御

新聞デ承知致シマス所ニ依リマスレバ、闊  
東軍參謀長ノ板垣少將ガ歸シテ來ラレテ、滿  
洲投資ニ向シテ政府並ニ民間ニ於テモ、モツ  
ト力ヲ入レテ吳レナケレバナラスト云フコ  
トヲ進言サレタト云フコトヲ、新聞ノ傳フ  
ル所ニ依シテ吾々ハ承知シテ居ルノデアリ  
マス、況ヤ更ニ北支ノ問題ガアリマス、北支  
ニ向シテ此儘ニシテ我國ガ投資ヲ躊躇スル  
ヤウナコトデアリマスルナラバ、北支ノ進  
出ト云フコトハ私ハ意味ヲ成サヌコトデア  
ラウト思ヒマス、ソレ等ヲ考ヘマスルト、  
近キ將來ニ於テ資金ノ需要ハ非常ナ急速ナ  
勢ヲ以テ、寧ロ其需要ガ増スノデハナイカ、  
斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマスガ、是等ノ  
點ニ向シテ大藏大臣ハ左様ナ懸念ガナイ、サ  
ウ云フヤウナ事情ガアルト致シマシテモ、  
此低金利ガ停頓シ、更ニ反騰スルヤウナ憂  
ハナイト云フ御考デアリマセウカ、サウデ  
アリマシタラ、其理由ヲ御説明ヲ願シテ、吾  
吾ヲシテ安心セシムルヤウニ願ヒタイト思  
ヒマス

アリマス、ソレ程一時ニ物ガ進ムト云フコトハ、是ハ餘程困難ナ事デ  
トハ、私ハ寧ロ難カシイデヤナイカト思フ、  
又滿洲移民ト云フヤウナ問題モ、或ハ將來  
進ンデ行クト思ヒマスルガ、是モ滿洲ニ非  
常ニ金ヲ投ズルコトニナルト云フコトニナ  
リマスト、私ハ滿洲移民ヲ送ルニシテモ、  
滿洲ニ金ヲ投ズルト云フコトデハ大シタ金  
額ニ上ラウトハ無論思ハナイ、左様ナ資金  
ノ需要ガアリマシテモ、今日ノ私共ノ見込  
ンデ居ル程度ニ於テハ、金利ノ反騰ヲ促ス  
ト云フヤウナコトマデ進ムヤウニハ考ヘテ  
居ラナイノデアリマス、是ハ見込ノ問題デ  
アリマスガ、私ハ左様ニ考ヘテ居リマス、  
武田君ハサウデナイト云フ風ナ御見込デア  
ルヤウデアリマス、之ニナリマスト、將來  
ノ見込問題デアリマスカラ、私ハ金利ノ反  
騰ヲ促スト云フヤウナ程度ノ、資金需要ガ  
起ルト云フヤウニハ、今日ノ場合考ヘテ居  
ラヌノデアリマス

シテ、就キマシテモウ一點伺ヒマス、一體  
金利ハ申スマデモナク、其産業ノ利潤カラ  
出ルコトハ言フマデモナイ話デアリマス、  
隨テ産業ノ利益ノアルヤウナ場合ニハ、金  
利ノ割合ガ其産業ノ利潤カラ出ルカラ、多  
クナリ得ル可能性ノアルコトハ言フマデモ  
ナイ、又利潤ノ少イ時ニハ、ドウシテモ、  
金利ガ支拂ヒ得ナイカラ、下ラナケレバナ  
ラヌ形勢デアルノデアリマス、私ハ最近ノ  
情勢ヲ見マスルト、我國ノ利潤ハ市場平均  
率ハ、昨年ノ下半期ニ於テ一割二分何厘ト  
云フコトニナツテ居ルヤウニ、三菱ノ經濟研  
究所ノ表ヲ見マスルトナツテ居リマス、之ヲ  
昭和六、七年頃ノ平均利潤率ガ五分内外デ  
アツタ實情ト比ベマシテ、非常ナ相違デアル  
ノデアリマス、是等ヲ以テ見マシテモ金利  
ガ更ニ下ルト云フコトハ、一寸道理上考ヘ  
得ナイヤウニ思ハレルノデアリマス、況ヤ  
大藏大臣ハ軍備ニ向シモ相當ノ金ヲ使ハ  
ナケレバナラヌ、又國民生活ノ安定ノ爲メ、  
思切ヅタ積極的ノ施設ヲシ、サウシテ産業貿  
易ヲ發達セシメナケレバナラヌト信ズル、  
斯ウ仰シヤル、此點洵ニ吾々同感デア  
ル、一面ニ於テ金利ヲ安クシ、一面ニ於テ  
産業ヲ盛ニナラシムルト云フコトハ、是ハ

スマイカ、所謂矛盾ト云フコトハ、サウ云  
フコトニ起ルモノデハナカラウカト思フノ  
英米アタリデハ非常ナ低金利デアル、殆ド  
革命的ノ低金利ダト言ハレテ居リマシテ、  
是ハ世界ノ低金利ノ趨勢ダト論ズル論者モ  
アリマス、成程是ハ事實デアリマセウ、併  
ナガラ英吉利ヤ亞米利加ノ今日ノ資本ノ蓄  
積ト云フモノハ、決シテ五年ヤ七年ヤ十年  
デ成立ツタモノデハナイ、我國デハ御承知ノ  
通リ外國カラ資金ヲ借りテ居ナイト云フコ  
トハ、漸クココ十年カソコラノコトデアリ  
マス、今日ノ電燈會社ガ著シク盛シニナッタ  
ノハ、日本ノ資金デナッタノデハナイ、大部  
分外國ノ資金デ今日ノ電力事業ハ盛シニ  
ナッタノデアリマス、而シテ金再禁止ノ結  
果、各電氣事業會社ガ苦シニ居ルノハ、外  
國爲替ノ低落ノ結果、外國ノ資本デ電氣ノ  
開發ヲシタト云フコトガ重大ナル原因デア  
ル、斯様ニ我國ガ自己資金デヤツテ居ルト  
云フコトハ、極メテ最近ノ事柄デアリマス、  
外國ノ實例ヲ見マスルト、英吉利アタリデ  
ル、今度引下ゲテモ三分三厘、然ルニ中央銀行  
ハ今日ハ定期預金ハ五厘デアリマス、亞米  
利加ハ二厘五毛デアリマス、然ルニ我國ハ

ノ標準金利ハドウデセウ、英吉利ハ二分デ  
アリ、亞米利加ハ一分五厘デアリ、我國ハ  
ニナツテ居ル、サウスルト外國デハ定期預金  
ト中央銀行ノ標準金利ト云フモノニハ、其  
差ガ非常ナ距リガアル、即チ定期預金ノ方  
ハ非常ニ安クテ、中央銀行ノ標準金利ト比  
ベマスルト非常ニ安イ、日本ハ僅カナガラ  
此定期預金ノ方ガ高イノデアリマス、英米  
ノ低金利ト我國ノ低金利デハ、其基礎ニ於  
テ斯様ナ重大ナル相違ガアリマス、ドウシ  
テモ金利ガ安クナルト云フナラバ、英米ノ  
定期預金ノ率ガ、中央銀行ノ標準利率ヨリ  
相當ナ安イ幅ヲ有ヅテ居ルヤウニナラナケ  
レバ、私ハ低金利ハ徹底スルモノデハナイ  
ト思フ、是等ノ幾多ノ事情ヲ考ヘテ見マス  
ルト、我國ノ金融界ノ實情ニ即シタカ、即  
サナイカト云フコトハ、見込ノ違ヒダト仰  
シヤレバソレ迄デアリマス、又一種ノ水掛  
論ニナルデアリマセウ、併ナガラ今申上ゲ  
タ英米ノ實情、又我國ノ實情ノ將來ヲ考ヘ  
テ見マスルト、大藏大臣ノヤウニ將來反騰  
ノ虞ナシト御斷言ニナルコトニ向ヅテハ、ド  
ウモ私ハ多少懸念ニ堪ヘナイノデアリマス  
ノデ、今一應其點ニ向ヅテ大藏大臣ノ御所見  
ヲ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○馬場國務大臣

私ハ武田君ノ御論旨ヲ、

ル資金ノ需要ガ非常ニ殖エル、サウ云フ場

所謂矛ト盾トヲ一時ニ賣ルモノデハアリマ  
スマイカ、所謂矛盾ト云フコトハ、サウ云  
フコトニ起ルモノデハナカラウカト思フノ

ノ標準金利ハドウデセウ、英吉利ハ二分デ  
アリ、亞米利加ハ一分五厘デアリ、我國ハ  
今度引下ゲテ三分二厘八毛五朱ト云フコト

○馬場國務大臣 私ハ武田君ノ御論旨ヲ、  
ハツキリ會得致サナカツタ節ガアルノデアリ  
マスガ、利潤ガ増加シテ居ルカラ何可低金アリ

ル資金ノ需要ガ非常ニ殖エル、サウ云フ場合ニハ金利ノ反騰ヲ促スノデハナイカ、斯ウ云フコトニ御疑惑ガアル譯デアリマス、

ハツキリ會得致サナカツタ節ガアルノデアリ  
マスガ、利潤ガ增加シテ居ルカラ何カ低金  
利ト云フモノガ旨ク行カヌデヤナイカ、反  
騰スルコトガアルデヤナイカト云フヤウナ  
風ニ、一寸伺ッタノデスガ、私ハ斯ウ云フ風  
ニ申シテ居ルノデアリマス、資金ノ「コスト」  
トガ下ル、資金ノ「コスト」ガ下レバ利潤ハ  
殖エル、同ジダケノモノガ賣レテ、其生産  
物ノ價ガ下レバ——資金「コスト」ガ下レ  
バ、即チ借入金、社債等ノ利率ガ下ッテ參  
レバ、利潤ハ殖エルノデアリマシテ、利潤ハ  
ガ殖エタカラ其中カラ利息ヲ拂フト云フヤ  
ウナ積リニハ考ヘテ居ラヌノデアリマス、  
ソレハ鬼ニ角ト致シマシテ、今御話ノ點ハ  
御尤デアリマス、英吉利、亞米利加ノ中央  
銀行ノ利率ト普通銀行ノ預金利率トハ、日  
本トハ反對ニナツテ居ル、是ハ成程日本ト革  
ル關係ガ、到底日本ハ及バナイト云フモニニ對ス  
ノ爲ニ、サウナツテ居ルト云フ御見込ハ、ソ  
レデ結構デアルト思フノデアリマスガ、併  
ナガラ私ガ申シテ居ルノハ、從來デモ日本  
銀行ノ公定割引歩合ト定期預金トハ、大體  
アリマス、要スルニ問題ハ他ニ事業ニ對ス

合ニハ金利ノ反騰ヲ促スノデハナイカ、斯  
ウ云フコトニ御疑念ガアル譯デアリマス、  
資金ノ需要ガ著シク殖エル、而シテ所謂政  
府カラ出ス支出ガソレ程デナイ、若クハ民  
間ノ資金ガソレ程ナイト云フコトデアレ  
バ、無論金利ガ上昇スルコトハ疑ナイノデ  
アリマスガ、日本ノ今日ノ實情ニ於テハ、  
サウ資金ガ著シク事業ニ投ゼラルルガ爲  
ニ、金融ノ今日ノ大勢ト申シマスカ、ソレ  
ヲ變更スル程度ニハ行カヌデアラウト云フ  
ノガ私ノ見込デス、此見込ガ若シ外レバ  
非常ニ資金ガ要ルト云フコトニナル、何故  
カト云フト産業界ガ非常ニ調子附イテ景氣  
ガ好クナル、ドンヽ海外貿易モ盛ニナ  
ル、又内地ノ産業モ非常ニ盛ニナル、是ハ  
私ハ非常ニ結構ナコトデアル、是アルガ爲  
ニ若シ金利ノ大勢ガ變ッテ金利ガ上昇スル  
ト云フコトデアレバ、私ハ自分ノ見込ガ外  
レテモ、其トキニハ私ハ結構デアリマスノ  
デ、勿論私ノ見込ガ外レマシタコトニ付テ  
ハ、相濟ミマセヌト謝マツテモ結構ナノデ  
アリマス、私ハサウ云フコトヲ望ムノデア  
リマスケレドモ、ドウモサウ云フ譯ニハ參  
イテ行クヤウニ思ハレル、無論吾々ハ極力

産業ノ進ムヤウニ、貿易ノ發展シマスヤウニ、努力ヲ致サナケレバナラヌコトハ固ヨリデアリマス、サウ致シマスト國庫ノ財政ノ側カラ申シマスレバ、自然增收ナリ、何ナリハ大イニ増スノデアリマス、隨テ所謂赤字公債ト云フモノハ減ツテ行ツテ宜イ譯ナノデアリマス、ソレヲ私ハ非常ニ希望スルノデアリマス、サウ云フ實勢ニナッタ場合ニ、金利ノ反騰ヲ來スト云フコトガアリマスレバ、私ノ見込ガ外レマシタト申シテ、私ハ頓首御詫ヲ申上ゲマス、サウ云フ情勢ニナレバ結構ダガ、ナラナイデハナイグラウカ、當分ハヤハリ此儘デ行クノチャナイダラウカ大勢ガ……サウシマスレバ、金利ノ反騰ハ見ナイデアラウト、斯ウ云フコトヲ見込ンデ居ル譯デアリマス

○武田委員 大藏大臣ハ見込ガ外レモ産業ハ盛シニナッテ、産業ノ方ニ資金ガ行ク爲ニ、金利ガ反騰スル狀態ヲ希望スルト仰シヤイマシタガ、是ハ洵ニ其通リデアリマス、其通リデアリマセウケレドモ、金融的ニ見マスレバ是ハ非常ニ憂フベキコトデハアリマスマイカ、大藏大臣ハ有ユル方法ヲ以テ産業貿易ノ發達ヲ圖ルト云フ御意思デアリ、又御言明ニナッテ居ル、又先程モ申シマスガ、少クトモ此重工業ノ方面ナドハ、ノ側カラ申シマスレバ、自然增收ナリ、何ナリハ大イニ増スノデアリマス、隨テ所謂赤字公債ト云フモノハ減ツテ行ツテ宜イ譯ナノデアリマス、ソレヲ私ハ非常ニ希望スルノデアリマス、サウシテ御希望ノ通リノ御見込シマシテ、サウシテ御希望ノ通リノ御見込ガ達ツタ場合ニハドウナリマセウカ、ソレマデノ間ニ赤字公債ヲ非常ニ抱込シテ銀行者ハ、公債ノ値下ノ爲ニ重大ナル苦惱ヲ被ルコトハ當然デアリマス、其爲ニ金融界ノ恐慌ヲ起スト云フコトモ、是ハ免レナイコトデアラウト思フノデアリマス、成程本年ノ豫算ハ、十一年度ノ豫算ハ前内閣ノ豫算ヲ踏襲サレタノデアリマシテ、軍事豫算ニ於テモ馬場大藏大臣ノ御豫想ニナッテ居ラレル程多クモナイデセウ、農村、其他ノ政策ト云フモノハ殆ド見ルベキモノハナイノデアリマス、故ニ本年一年、即チ前内閣ノ編成サレマシタ昭和十一年度ノ豫算ノ實行期、即チ明年度マデノ間ハ、馬場大藏大臣ノ御見込リニ行クデアリマセウガ、若シ馬場大藏大臣ノ政策ガ實效ヲ奏シ、又奏サナクトモ今日ノ産業界ノ實情ガ此儘ニ進ミマスルナラバ、明年頃ニ至リマシテ果シテ、私ハ實ハ今日ハ考ヘテ居リマセヌ、併シアルガ爲ニ直チニ金融恐慌ヲ起スナドトハ、私ハ實ハ今日ハ考ヘテ居リマセヌ、併シ銀行トシテハ或ハ配當ヲ減サナケレバナラヌ、或ハ又貸付金利ヲ從フテ上ゲナケレバナラヌ、色々ノ操作ハソコニアラウト思ヒ

スルヤウニ、同ジコトヲ繰返スコトヲ避ケマスガ、少クトモ此重工業ノ方面ナドハ、ノ側カラ申シマスレバ、自然增收ナリ、何ナリハ大イニ増スノデアリマス、隨テ所謂赤字公債ト云フモノハ減ツテ行ツテ宜イ譯ナノデアリマス、ソレヲ私ハ非常ニ希望スルノデアリマス、サウシテ御希望ノ通リノ御見込シマシテ、サウシテ御希望ノ通リノ御見込ガ達ツタ場合ニハドウナリマセウカ、ソレマデノ間ニ赤字公債ヲ非常ニ抱込シテ銀行者ハ、公債ノ値下ノ爲ニ重大ナル苦惱ヲ被ルコトハ當然デアリマス、其爲ニ金融界ノ恐慌ヲ起スト云フコトモ、是ハ免レナイコトデアラウト思フノデアリマス、成程本年ノ豫算ハ、十一年度ノ豫算ハ前内閣ノ豫算ヲ踏襲サレタノデアリマシテ、軍事豫算ニ於テモ馬場大藏大臣ノ御豫想ニナッテ居ラレル程多クモナイデセウ、農村、其他ノ政策ト云フモノハ殆ド見ルベキモノハナイノデアリマス、故ニ本年一年、即チ前内閣ノ編成サレマシタ昭和十一年度ノ豫算ノ實行期、即チ明年度マデノ間ハ、馬場大藏大臣ノ御見込リニ行クデアリマセウガ、若シ馬場大藏大臣ノ政策ガ實效ヲ奏シ、又奏サナクトモ今日ノ産業界ノ實情ガ此儘ニ進ミマスルナラバ、明年頃ニ至リマシテ果シテ、私ハ實ハ今日ハ考ヘテ居リマセヌ、併シアルガ爲ニ直チニ金融恐慌ヲ起スナドトハ、私ハ實ハ今日ハ考ヘテ居リマセヌ、併シ銀行トシテハ或ハ配當ヲ減サナケレバナラヌ、或ハ又貸付金利ヲ從フテ上ゲナケレバナラヌ、色々ノ操作ハソコニアラウト思ヒ

カラウカト思ヒマス、私ハ産業貿易ノ發達興隆ニ向ツテ、現内閣カラ極力力ヲ盡シテ戴キタイノデアリマスカラ、敢テ此事ヲ申述ベマシテ、低金利ノ力ニ依ツテ産業貿易ノ盛シニナルコトヲ豫期サレテ居ルナラバ、是ハ大イナル過チデハアリマスマイカ、是ハ他ノ有ユル手段ヲ御執リ願ツテ、サウシテ是非トモ産業貿易ノ隆興發展ト云フコトニ向ツテ、力ヲ願ヒタインデアリマスカラ、誤解ノナイヤウニ其點ダケ一言申上ゲテ置キマス、ソレカラ是以上申上ゲルコトハ意見ノ相違ニナルト見ヒマスカラ、此程度ニシテ、モウ一つ伺ツテ置キタイコトハ、先程大臣ノ御言葉ノ中ニ、國債ノ利廻リノ點ナドニ付テ御話ガアリマシタガ、今日私ハ國債ニ取りマシテハ、殆ド日本銀行ハ「マーケット・オペレーション」ヲオヤリニナル上ニ於キマシテ、直接銀行ヲ相手トシテオキデニナル結果、公債ニ向ツテハ本當ノ「マーケット」ト云モノハナイヤウニ思ハレルノデアリマス、隨テ公債ノ高低ノ利潤ト云モノヲ見出スコトハ頗ル困難デアル、大藏省若クハ日本銀行ノ腰ダメノ見當デ、オヤリニナツテ居ルヤウニ私ハ考ヘル、勿論熟練シテ居ル日本銀行ノ當局者竝ニ大藏省ノ方々ハ、相當御研究ニナツテ居ルノデアリマ

スカラ、腰ダメダカラト云ツテ私ハ過チガ多イトハ斷言致シマセヌカラ、茲ニ適當ナルリヲ發見スルト云フコトハ、此公債ノ消化並ニ金利問題ニ關シテ、重大ナル必要ナコトデハナイカト斯様ニ考ヘルノデアリマスガ、大藏大臣ハ此日本銀行ノ「マーケット・オペレーション」ヲ爲サル場合ニ於キマシテ、之ヲ取引所ノ市場ニ御掛ケニナルト云フ御意見ガアリマセヌカドウデセウ、又サウ致シマシタラ、若シソレガ非ナリト云フ何カ非常ナ支障ヲ生ズルデセウカ其點ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○馬場國務大臣 私モ先程少シ言葉ガ足リマセヌデ、武田君ノ誤解ヲ受ケマシタコトハ甚ダ遺憾デアリマス、私ハ私ノ今日執ツタ低金利關係ダケデ、産業貿易ガ大イニ進展スルト云フ結果ガ、直ぐ起ラウト云フコトハ私モ考ヘテハ居ラナイ、少シ私ノ言葉ガウデアリマス、此點ハ十分ニ考慮ヲ致サナケレバナラヌト思ヒマスシ、御承知ノ通り今日デハ此國債ノ取引ト云フコトガ、株式取引所ノ一部ニナツテ居リマシテ、此株式取引所ハ大藏省ニ何等ノ監督權モナイ狀態デアルノデアリマスルカラ、今武田君ノ御話トシマスト、又ソコニ此取引所ト云フモノノ監督權ト云フ問題モ、併セテ解決シテ参リマセヌケレバ、適當デナイト思ヒマス、今日ノ場合ニ於テハ、市場操作——今日マデ行ツテ居ルヤリ方ヲ續行シテ行ク、無論今後此賣止ニナツテ居リマスル四分利債ノ如キハ、過去ニ於テ行ヒマシタ如ク、發行價格デ之ヲ賣ルト云フ積リハナイノデアリマシテ、今日トナレバ所謂市場相當ノ價格デ、モ、其通リデアリマス、ソレカラ最後ノ今ノ公債ニ付テ、日本銀行ノ今ヤツテ居ル「マーケット・オペレーション」ト申シマスカ、市場操作ヲ改メル考ハナイカ、是ハ只今ノ所デハ、從來ノ通リノヤリ方デ進ンデ行クノガ、寧ロ適當デハナイカト思ツテ居リマス、アラウト思ツテ居ルノデアリマス

○武田委員 最後ニ一ツ伺ツテ置キタイノデスガ、大藏大臣ノ第一次ノ所謂御聲明ニ、財政ノ健否ハ單ニ歲計ノ數字ニ依ツテ別ツベキモノデハナク、國民經濟力ノ均衡如何ト、財政施設ノ經濟的成果如何トニアルノデアリマシテ云々トアリマス、是ハ最モ私共ノ共鳴致ス所デアリマシテ、吾々ガ前高橋大藏大臣ノ財政計畫ニ贊成ヲシ得ナカッタ點ハ此點デアリマス、此點ニ付テハ満幅ノ贊成ヲ表スル者デアリマス、就キマシテハ、此國民ノ經濟力ト財政ノ均衡ト云フコトハ、何ニ依ツテ御認メニナルノデアリマセウカ、其標準ハ何等カ據ル所ガナケレバナラスト思ヒマスノデアリマスガ、之ヲ具體的ニハドウ云フ風ニ御考ニナツテ居ルノデ

アリマスルカ、ソレヲ實ハ伺ヒタイノデアリマス、國力ト財政ノ均衡ヲ圖ルト云フコトニ付テハ、色々ナル見方ガ私ハアルト思ヒマス、併シ實際問題トシテ、茲ニ財政ヲ御編成ニナルト云フヤウナ場合ニ、一番斯ウ云フ點ニ見タラドウ云フモノデアラウカト云フ、是ハ私ノヤウナ知識ノ少イ、經驗ノ少イ者ノ私見デアリマシテ、或ハ御笑ヒヲ招クモノデアルカモ知レマセヌガ、私ハ色色考ヘタ結果、ヤハリ自分ノ考ヘダケハ自分デハ宜イト實ハ思ツテ居ルモノデスカラ、腹藏ナク一ツ申上ゲテ見タイノデアリマス、ソレハ他ノ色々ナル見方ガアリマスルケレドモ、國力ノ伸展ハ自然增收ニ——財政上ノ自然增收ニ依ツテ見ルノガ稍々確實デアル、自然增收ノ範圍内ニ於テ國債ノ利子ヲ支拂ヒ、同時ニ例ノ國債ハアノ償還ノ規定ニアリマスル万分ノ百十六ノ元金償還ヲ加ヘル、自然增收ノ範圍内ニ於テ國債ノ利子ヲヘマシテ、即チ十億ノ公債ヲ募集スルト致シマスルナラバ、今日ノアレト致シマシテハ三千五百万圓、ソレニ千二百二十何万圓、四千五百万圓ノ自然增收ガアリマスレバ、其利子ヲ支拂ツテ、更ニ万分ノ百十六ノ元金

勿論自然增收ノ額ノミニ依ッテ總テヲ決定スルトハ申スノデアリマセヌケレドモ、此見方ハ日本ノ產業ノ發達、即チ經濟力ノ發達ノ測量ト致シマシテハ、サウ無理ナ見方デナインデハナイカ、左様ナ見方ヲ致シマシテ、自然增收——昨年アタリノ八千万圓ノ自然增收ガアツタ場合ニ於キマシテハ、今申上ゲタヤウナ數字カラ申シマスルナラバ、十億乃至十二二億ノ公債ヲ募ツテモ、何等國民經濟ノ上カラハ懸念ハナイ、寧ロ今私ノ申上ゲタコトヲ極端ニ申上ゲマスルナラバ、殆ド二十億ノ公債ヲ募ツテモ差支ナイト云フヤウナ結論ニモナリマスルケレドモ、ソレハ唯國民經濟ノ上カラ見マスルノデ、國債募集ノ技術ノ上カラ見マシテハ、色々ノ支障ガアリマセウカラ、サウ嚴密ナ意味ニ申上グルコトハ出來マセヌケレドモ、私ハ大體サウ云フ見方ヲシテモ差支ハアルマイカ、左様ナコトハ如何ナモノデアリマセウカト云フ、唯私見ヲ申上ゲルノデアリマスルガ、ソレニ付テノ御所見ヲ、又最初申上ゲマシタルガ如ク、別ニ大藏大臣ハ國家ノ財政ト國力トノ均衡如何ト云フコトニ付テハ、ドウ云フ風ナ標準ニ依ッテ御定メニナルカト云フ點ノ御意見ヲ、承リタイ

ノ馬場國務大臣 武田君ノ御見込ト申シマ  
スカ、御意見モ確ニ一ツノ見方デアラウト  
私モ考ヘマス、ガ私ノマア意見ト申ス程ノ  
コトモゴザイマセヌガ、是ハ實ハドウ云フ  
風ニ見テ行クカト云フコトハ、非常ニ難シ  
イ問題デ、此自然增收ナドニ付キマシテモ、  
所謂此稅制ノ立テ方其他ニ依ツテモ段々變ツ  
テ參リマスシ、稅制ノ立テ方ガ惡ケレバ、  
增收セラルベクシテ增收セラレヌト云フヤ  
ウナコトニモナリマスガ、マア自然增收ト  
云フモノヲ一ツノ見方ニスルト云フコトハ  
確カデアルト思ヒマスガ、私共ハ此國民經  
濟力ト財政トノ比較的ノ考ヘ方ハ、種々ノ  
方面カラ觀察スル方ガ宜クハナイカ、御承  
知ノ通リ古來財政學者ノ間ニハ、色々國民  
所得ノ何「パーセント」マデハ宜シトイ云  
ファウナ、或ル獨斷的ノ標準ヲ設ケタモノノ  
モアルヤウデアリマスガ、是ハ所謂國民所  
得——財政モ結局或ル意味ニ於テハ國家ノ  
ノガ大體ノ標準ニナラナケレバナラヌト思  
全體ノ消費ノ一ツデアリマス、大キナ消費  
者デアリマスカラ、結局國民所得ト云フモ  
モノガ非常ニ明瞭ニ分ルカト云フコトニナ  
リマスト、是ハ又中々難カシイノデアリマス

シテ、各種ノ材料ニ依ツテ推測スルノ外ハナ  
イノデアリマスガ、國家モ所謂消費者デア  
ル、大キナ消費ヲスル、無論生産的消費モ  
アリマスシ、然ラザル消費モアリマスルガ、  
是ハ全體國家國民ノ所得ト云フモノカラ、  
ヤハリ支出サレルベキモノデアリマスカ  
ラ、國民所得ノ增加ト云フコトニ應ジテ行  
クト云フコトガ、結局國民經濟ニ即應スル  
ト云フコトニ考ヘラレルノデハナイカ、ソ  
レデハ國民所得ノ推測ヲ、ドウ云フ風ニシ  
テ行クカト云フコトニ付テハ、色々ノ點カ  
ラ推測致サナケレバナラヌノデアリマス、  
併シ極ク荒ヅボイ今ノアナタノ見方モ、確ニ  
一ツノ見方ダト思ヒマス

昭和十一年五月十四日印刷

昭和十一年五月十五日發行

衆議院事務局

印刷者 常磐印刷株式會社